

令和5年度 国土交通省補助事業

令和5年度

住宅・建築物カーボンニュートラル総合推進事業
(大工技能者等の担い手確保・育成事業)

事業成果報告書



令和6年3月

一般社団法人 木を活かす建築推進協議会

目次

1) 全国組織による取組概要

① 全国建設労働組合総連合	1
② (一社) JBN・全国工務店協会	7
③ (一財) 住宅産業研修財団	10
④ (一社) 全国木造建設事業協会	15
⑤ (一社) 全国住宅産業地域活性化協議会	18
⑥ (一社) 全国古民家再生協会	23
⑦ (一社) 日本 CLT 協会	28

2) 地域組織による取組概要

① (一社) 北海道ビルダース協会	32
② (一社) 東北建設技能協会	43
③ (一社) 福島県工務店協会	53
④ (一社) 東京大工塾	59
⑤ (一社) にいがた木造建築協会	66
⑥ (一社) 富士山木造住宅協会	71
⑦ 愛知県建設団体協議会	76
⑧ (一社) 全国中小建築工匠連合会	79

3) 最近の大工技能者等に係る動向

82

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

建築大工の担い手確保・育成支援事業

令和6年3月5日
全国建設労働組合総連合

令和5年度 建築大工の担い手確保・育成支援等事業（全国建設労働組合総連合）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	茨城県、東京都、神奈川県、愛知県、島根県、広島県、徳島県（長期訓練全7地域）※短期訓練14地域	
研修期間	長期：令和5年6月 6日～令和5年12月17日（約7ヵ月） 短期：令和5年5月10日～令和5年11月29日（約7ヵ月）	
受講者数	実数	育成：長期42名（男性38名、女性4名） 短期47名（男性46名、女性1名）
受講者属性	種別	大工：長期42名（見習いを含む） 大工：短期47名（見習いを含む）
	年齢構成	20歳未満：6名 30歳代：19名 20-24歳：41名 40歳代以上：8名 25-29歳：15名
座学・実技研修（長期のみ）	座学	37回（茨城：6回、東京：1回、神奈川3回、愛知3回、島根6回、広島18回）
	実技	84回（茨城：14回、東京：8回、神奈川6回、愛知9回、島根18回、広島18回、徳島11回）
	計	121回（茨城：20回、東京：9回、神奈川9回、愛知12回、島根24回、広島36回、徳島11回）

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 長期訓練では、技能者の処遇改善に向けてCCUSの技能者情報登録を促進するとともに、3年継続を基本として建築大工技能者能力評価基準においてレベル2以上の判定を受けられることを目標にしてカリキュラムを設定した。
- 経験年数の浅い受講生が多く、座学では「社会人基礎講習」「労働安全衛生管理」など現場で従事する上で最も基本的なことから学び、実技では「道具の使用法と手入れ」から始め、「仕口、継手の加工・組立」を繰り返し行い、正確に早くできるよう取り組んだ。
- 3年継続研修の初年度のため、87.6%の研修（座学+実技）がLv1、12.4%の研修がLv2と基本を中心に指導。
- 左に記載の集合訓練を主体に、補完的役割として分散訓練（OJT）を33名を対象に1,155時間実施。
- 長期受講が困難な若年大工技能者を対象に、短期訓練を実施。短期訓練は「現寸図作成」「部材組立加工」に絞った研修。14地域47人が受講。114回519.5h実施。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 3年継続が基本のカリキュラムで、今年度は初年度であるため目標としていたレベル2以上に到達した受講者はいない。
- 補佐的な位置づけで建築大工技能者職業能力評価基準をベースにした簡易版評価シートで、講師評価受講前3.23→受講後4.60、事業者評価受講前3.39→受講後4.83、とともに一定の成果が見られ、3年間での到達に向けて順調に進んでいる。
- 受講者アンケートで理解度も高く、技術・技能に関する自己評価が85.7%。講師アンケートでも「向上した」が77.8%と高い水準。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 受講生が継続的に訓練に参加しやすいように、分かりやすい目標を節目節目に設定することが必要。
- 規矩術等の技能について、講師からは「現場で使う機会も少なくなったが、大工の基本的な技能としてできる限り学んでほしい」という声の一方、受講者からは「フロア張りやボード張りなど「普段の現場で役に立つようなことも学びたい」という声がある。受講者の希望にも応えつつ将来的に必要な内容を組み込むなど、丁寧なカリキュラム構成が引き続き必要。

令和5年度 建築大工の担い手確保・育成支援等事業（全国建設労働組合総連合）【育成】



長期・集中訓練
2023年10月22日 茨城県連(日立)
Lv1(実技) 方形屋根施工実習



長期・集中訓練
2023年11月12日 神奈川県連
Lv2(座学) 宅内電気工事施工の
考え方、給排水設備・蛇口取付



短期訓練
2023年8月20日 石川県連
若年大工技能向上講習(現寸図作成及び部
材組み立て加工)



長期・集中訓練
2023年11月4日 フレッセ
Lv1(実技) 捻子組の墨付
け及び刻み加工



長期・集中訓練
2023年11月7日 全建愛知
Lv1(実技) 会議室の腰板施工研修

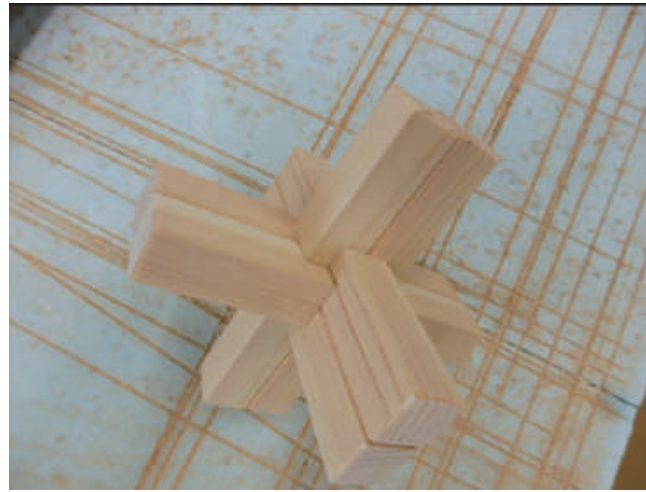


長期・分散訓練
2023年7月3日 島根建連
機械を使用した材料の加工指導及び安全確認指導

令和5年度 建築大工の担い手確保・育成支援等事業（全国建設労働組合総連合）【育成】



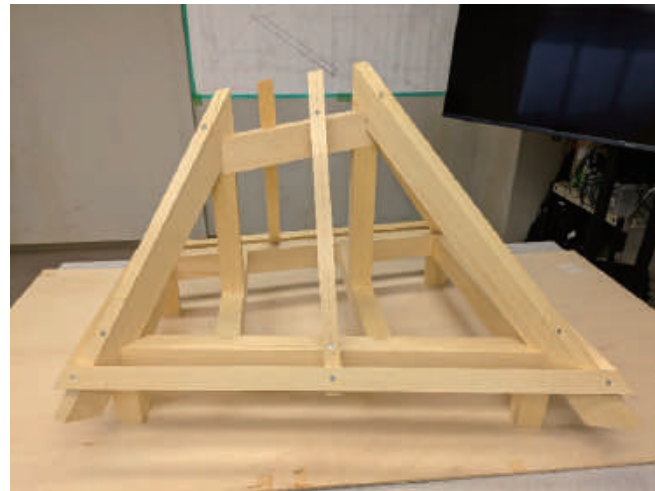
長期・集合訓練 茨城県
二方転び踏み台



長期・集合訓練 愛知県
規矩術



長期・集合訓練 広島県
屋根筋交い課題 ヒヨドリ栓隅木



短期講習課題見本①
柱建て小屋組



短期講習課題見本②
柱建て六角堂小屋組



長期・集合訓練 神奈川県
四方転び踏み台

令和5年度 建築大工の担い手確保・育成支援等事業（全国建設労働組合総連合）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	【キャリア教育】広島県 【就業履歴蓄積モデル事業】千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、広島県、福岡県	
事業期間	令和5年5月1日～令和6年1月26日(約9ヵ月)	
受講者数 (キャリア教育のみ)	実数	確保:5名(男性3名、女性2名)
受講者属性 (キャリア教育のみ)	種別	大工関係者:0名 その他(建築科工業高校生):5名
	年齢構成	20歳未満:5名
座学・実技研修 (キャリア教育のみ)	座学	0回
	実技	1回(広島会場:1回)
	計	1回

2-2. 研修活動等の概要【確保】

- 【キャリア教育】
- 広島県立「宮島工業高校」建築部1～3年生5人を対象に、職業体験として木製屋根筋交い作品の木造りと鉋がけを指導。
 - 原寸図作成における留意点やコツを解説。くせ削り実演後、生徒も体験。
 - 鉋の刃を研ぐ前と研いだ後でどれだけ切れ味が変わるのか実演・体験後、研ぎ方の説明、カンナ台の調整方法を指導。
- 【履歴蓄積】
- 住宅建築現場における就業履歴蓄積モデル事業を実施。CCUSを活用した現場入退場管理や就業履歴蓄積の方法を普及させ、工務店による労務管理を支援して大工技能者の労働環境向上を図ることが目的。
 - 事業者登録を行っている当団体加盟組合等がCCUS事業者IDを取得し「地域一括」で現場登録を行い、技能者による電話発信または顔認証で入退場を記録、就業履歴を蓄積した。
 - 8地域80人で2154出面。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

- 【キャリア教育】教育機関(工業高校)へのアンケートでは「将来大工になりたいという生徒に良い刺激になった」との回答で、「機会があれば来年度も実施したい」と前向きな意見。受講者(生徒)へのアンケートでも、「今後も建築大工の職業体験をしたい」と非常に高い評価。
- 【履歴蓄積】就業履歴蓄積に必要な現場登録が大きな手間となる小規模零細事業者や一人親方から、「簡単」「やりやすい」との声。出退勤管理が適切に行えていなかった事業者にとっては「簡易で有効」との声も。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

- 【キャリア教育】建築部のような大工にもともと興味のある生徒に指導するのは大変意義のあることだが、他校の建築科や普通科の生徒に指導する機会はなかった。希望者を募るなどの工夫が必要である。
- 【履歴蓄積】入退場の際に電話を忘れ、一部の就業履歴が蓄積されなかった。CCUS能力評価には、就業履歴の蓄積は欠かせないが、その重要性の認知が不足している。研修を実施するなど、技能者個人にも履歴蓄積の重要性を周知する必要がある。

令和5年度 建築大工の担い手確保・育成支援等事業（全国建設労働組合総連合）【確保】

6



確保 広島県 11/29宮島工業高校・建築部
職業体験として木製屋根筋交い作品の木造りと鉋がけ

確保 住宅建築現場における
就業履歴蓄積モデル事業

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域工務店の大工育成 (プレカット型・手刻み型)

令和6年3月5日

(一社)JBN・全国工務店協会



令和5年度 地域工務店の大工育成(プレカット型・手刻み型)

((一社)JBN・全国工務店協会)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	青森県、秋田県、山形県、埼玉県、富山県(震災のため、一部中止)、石川県、山梨県、大阪府、兵庫県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、熊本県、宮崎県、鹿児島県	
研修期間	令和5年6月24日～令和6年1月24日(約7ヵ月)	
受講者数	実数	育成:114名(男性106名、女性8名)
受講者属性	種別	大工:114名
	年齢構成	20歳未満: 8名 30歳代:20名
		20-24歳:44名 40歳代:15名
25-29歳:27名		
座学・実技研修	座学	35回(青森県:4回、秋田県:2回、山形県:2回、富山県:1回、石川県:1回、山梨県:5回、大阪府:6回、兵庫県:2回、徳島県:3回、香川県:1回、愛媛県:2回、福岡県:4回、熊本県:1回、宮崎県:1回)
	実技	144回(青森県:4回、秋田県:10回、山形県:10回、埼玉県:9回、富山県:13回、石川県:5回、山梨県:7回、大阪府:6回、兵庫県:9回、徳島県:9回、香川県:13回、愛媛県:10回、福岡県:6回、熊本県:9回、宮崎県:14回、鹿児島県:10回)
	計	179回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- CCUS2未満の大工を対象とした研修を実施。
- 【座学】両コースともに実施。
社会人の基礎、労働安全衛生法、木造軸組住宅概論を学んだ。
- 【プレカット加工を前提とした研修】
主に、道具の基礎知識、足場の組立、建て方、外部施工、内部施工、設備機器の取付、道具工具類の取扱い、階段施工等についての技能を学び、解体までを行った。
- 【手刻みを前提としたコース】
手刻み加工を軸とし、差し金の使用方法や規矩術の基本を学び、原寸図の作成及び墨付け・加工までの一連の工程を1人で行えるようになった。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 育成の環境について、地域間の格差はあるが、全員のCCUSレベル2の到達は十分見込め、技能を向上させようという意欲も高い。
- 手刻み型は、展開図、墨付け、刻みの基礎を理解することができ、受講者の技能向上につながった。プレカット型では、階段施工等を行ったことにより、実際の現場でミスなく訓練通りに施工を行うことができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 研修の回数が多くなるにつれ、通常の業務に支障が出るようになり、受講者の欠席が増える。欠席しないような研修にしたり、受講しやすい環境の整備が必要である。
富山県は、能登半島地震の影響で、一部中止せざるを得なかった。
- リフォーム需要の増加に伴い、新築住宅だけでなく、リフォームにも対応できるカリキュラムを作成する必要がある。

令和5年度 地域工務店の大工育成(プレカット型・手刻み型)

((一社)JBN・全国工務店協会)【育成】



9



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

大工志塾

令和6年3月5日
(一財)住宅産業研修財団

令和5年度 大工志塾（（一財）住宅産業研修財団）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	東京都、新潟県、長野県、愛知県、大阪府、福岡県	
研修期間	令和5年4月19日～令和6年3月6日(約11ヵ月)	
受講者数	実数	育成:85名(男性78名、女性7名) 3期生18名、4期生25名、5期生20名、 6期生22名
	種別	大工:85名(見習いを含む)
受講者属性	年齢構成	20歳未満:11名 30歳代:11名
		20-24歳:49名 40歳代:1名
		25-29歳:13名
座学・実技研修	座学	386回(東京都:73回、新潟県:21回、長野県:73回、愛知県:73回、大阪府:73回、福岡県:73回)
	実技	全体:8回
		3期生:1回(修了制作(石場建て足固め工法 板倉造住宅))
		4期生:5回(技能向上研修(技能検定課題演習))
5期生:1回(あずまや)		
	6期生:1回(薪棚)	
	計	394回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

1) 各地域の研修

道具の手入れ・使い方を学び、継手・仕口や棒隅木、伝統構法の架構の墨付け刻み等を行った。また、木造建築図面の読み方や書き方、伝統構法の架構、伝統構法の納まり詳細図等について指導した。さらに、住まいの構法に係る歴史や地域木材の生産・流通、住宅生産の工程、住環境(温熱・換気の基礎知識等)など、大工として必要とされる基礎知識について解説した。

2) 集合実技研修

年に1度、1～2週間に亘り、各地の受講生が1ヵ所に集合し、年次ごとの実物件の課題制作を通じて、地域研修で習得した知識や技能の実践と定着を図る取組。

- ① 薪棚 : 「軸組」を組むことに重点を置き、部材を直交させるだけの単(1年次) 純な架構に屋根と基礎が付いた構造物を制作した。
- ② 四阿 : 「勾配」を理解することに重点を置き、2方向の勾配の理解が必須(2年次) 要な隅木を有する構造物を制作した。
- ③ 石場建て足固め工法 : 担当部材だけでなく「建物全体」の造りを把握することに重点を置き、伝統構法による住宅1棟の棟上げまでを行った。(3年次)

3) 現場研修(OJT)

社会人、職業人としてのビジネスマナーや社会的責任、チームワークとコミュニケーション能力、安全管理等について指導した。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 参加頻度の少ない塾生(集合実技研修の欠席者を含む)がいること
→より参加しやすい研修日程を設定(地域研修の土曜開催の試行等)するとともに、塾生の所属工務店に対しても業務調整を依頼する。
- 研修内容のバラツキおよび重複の極小化
→統一的な知識を教授できるよう、塾主体のテキストの制作を検討する。
- 塾生の確保
→伝統構法を習得する若手大工の育成を目指す工務店や伝統構法の習得を志す若手大工(見習いを含む)等との接点創出を図るための広報活動を強化する。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

1) 各地域の研修

・仕口・継手の種類と使用法、使い分けができるようになった。また建築図面から構造や架構を理解し、伏図と矩計図の作図や木拾いができるようになった。

2) 集合実技研修

- 1年次 : 柱の3方差しができるようになった。
- 2年次 : 塾生は隅木の落ち掛かり部分の墨付け・刻みができるようになった。
- 3年次 : 伏図を見て墨付けができるようになった。

3) 現場研修(OJT)

・大工職業能力評価シートをもとに、OJTで学ぶ社会人・職業人の自覚等の項目に絞った独自の評価シート(145点満点)を作成し、指導棟梁が評価した。その結果、受講前と比較して平均5.8点(4%)上昇した。

令和5年度 大工志塾 ((一財)住宅産業研修財団) 【育成】

集合実技研修「薪棚」(6期生)・「あずまや」(5期生)



「技能向上研修」(4期生)



建築大工技能検定の課題を取り入れた実技研修を全国5教室で実施。

(参考)木材利用促進協定

▼協定締結者(5主体)

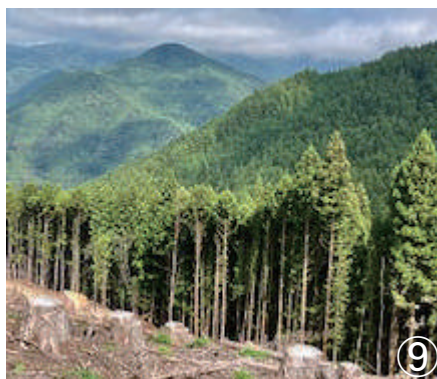
神流町 / 神流川森林組合 / 住宅産業研修財団
優良工務店の会(QBC) / 大工志の会

▼概要

神流杉と神流檜を活用した伝統構法を担う大工技能者の育成を支援し、伝統木造建築文化の継承に貢献するとともに、神流町の産業活性化に資する地産地消を推進する。協定締結は群馬県初(当時)。

▼神流町の森林

▼建築物等における神流町産材の利用促進協定締結式(R5.9.27)



町の総面積の9割が森林。標高650m以上で育った神流町産材は高密度で良質。(商標登録申請中)の認知度向上やSDGSにも寄与。

令和5年度 大工志塾 ((一財)住宅産業研修財団) 【育成】

集合実技研修「石場建て足固め工法 板倉造住宅」(3期生修了制作)



令和5年度 大工志塾 ((一財)住宅産業研修財団) 【育成】

座学風景①



座学風景②



OJT指導風景①



OJT指導風景②



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

災害時における応急仮設木造住宅建設及び 応急修理対応のための大工育成研修

15

令和6年3月5日
(一社)全国木造建設事業協会



令和5年度 災害時における応急仮設木造住宅建設及び応急修理対応のための大工育成研修 ((一社)全国木造建設事業協会)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	岩手県、山形県、千葉県、東京都、神奈川県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、広島県、高知県	
研修期間	令和5年8月29日～令和5年12月14日(約4ヵ月)	
受講者数	実数	育成:229名(男性229名、女性0名)
受講者属性	種別	大工:229名
	年齢構成	20歳未満: 0名 30歳代: 32名 20-24歳: 6名 40歳代: 169名 25-29歳: 22名
座学・実技研修	座学	4回 (山形、東京、山梨、長野:各会場1回)
	実技	9回 (岩手、千葉、神奈川、福井、山梨、静岡、三重、広島、高知:各会場1回)
	計	13回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 【応急仮設住宅施工・管理に関する研修会】
 - ・木造応急仮設住宅の図面、仕様内容をもとに施工管理や図面の説明を行った。
- 【木造応急仮設住宅界壁施工訓練】
 - ・災害発生、着工、引き渡しまでの流れが記載された応急仮設住宅手順マニュアルについて説明した。
 - ・間仕切り壁を設け、延焼防止や隣戸の生活音を遮音する、精度の高い界壁施工を実施した。
- 【木造応急仮設住宅木杭実習訓練】
 - ・応急仮設住宅の基礎は、木杭を基礎とし、木杭の上に土台を載せていくため、木杭の打ち込みの訓練を実施した。
 - ・基礎を正しく施工するため、木杭の高さを計測し、丸鋸で切り、高さを合わせるレベル合わせを実施した。
- 【応急修理対応実習研修会】
 - ・実際の屋根にブルーシートを張り、ルーフィングを使用した屋根修理
- 【全国研修会】
 - ・今年度の補助事業の取り組み内容について、報告及び情報共有を行った。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 座学では、各県ごとの図面・仕様内容、応急仮設住宅の見積書の作成方法、断熱性能計算を学んだことで、災害時に一定基準以上の仮設住宅の提供できるようになった。
- 応急修理研修会では、実際の住宅の屋根を使用した実践形式での研修会を開催することで、施工の注意点、ポイントの理解が深まった。施工実技では、界壁施工内容や木杭の手順を把握することで、災害時に迅速に対応することが可能となった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 現在、能登半島地震を受けて、仮設住宅の建設に取り掛かり実感していることは、各県ごとに仮設住宅の図面・仕様内容を準備しておくことで早期の対応が可能になる。早急に、全国的に準備を進める必要がある。
- 研修をまだ実施できていない地域があり、災害がいつ発生するかわからないため、早急な研修の実施が望まれる。

令和5年度 災害時における応急仮設木造住宅建設及び応急修理対応のための大工育成研修 ((一社)全国木造建設事業協会)【育成】



17



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域の建材店を中心とした 地域の会大工担い手育成事業

18

令和6年3月5日
(一社)全国住宅産業地域活性化協議会



1-1. 全体概要【育成】

実施地域	福井県、山梨県、愛知県(岡崎)、鳥取県、岡山県、広島県(広島・福山)、長崎県、鹿児島県、沖縄県	
研修期間	令和5年7月4日～令和5年12月21日(約6ヵ月)	
受講者数	実数	育成:70名(男性59名、女性11名)
受講者属性	種別	大工:55名(見習いを含む) その他(現場監督・設計・営業):15名
	年齢構成	20歳未満:19名 30歳代:7名 20-24歳:32名 40歳代以上:4名 25-29歳:8名
座学・実技研修	座学	28回(10地域延べ回数)
	実技	116回(10地域延べ回数)
	計	144回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 座学による基礎的な知識習得支援
共通テキストを用いて、社会人基礎知識・労働安全衛生法・道具の知識・木造軸組住宅概論基礎知識を習得。内装工事論・CAD基礎知識等は地域の希望をカリキュラムに組み込んだ。
- 実技による技能習得支援
・プレカット構造材を用いた木造軸組住宅の概要、墨付け、刻み、建て方(下地含む)
・外部施工、内部施工法及び道具工具類の取扱いについての基礎的な技能の習得
- 参考:全体集合研修
若手大工の技能習得、コミュニティ、ネットワーク作りの一環として各地域の受講生を一同に集めての研修。共に研修・振り返りを行うことにより主体的に気づき・発見をしてもらい、普段とは違う形での成長を期待。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 受講生のレベルは、受講1年目の新人はほとんどがレベル1-①(能力評価シート達成度0%～15%)で、「基本的な立振舞」を除いて、知識も技能も持ち合わせていなかったが、研修後レベル1-②(能力評価シート達成度16%～25%)に伸びた受講生が多かった。受講2・3年目はレベル1-②～レベル2までの受講者が多く、研修後にはレベル1-③～レベル2に伸びた。
- 集合研修を通して、他地域の同世代とのコミュニケーション(同世代の横つながり)をはかり、その後のディスカッションで振り返り共有することにより、自身の強みや課題を発見する場となった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

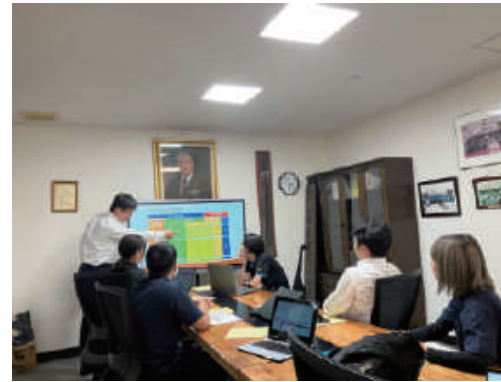
- 研修科目がプレカット構造材を使った研修を基本としているためか、全体的に「大工技能」の「仕上・造作工事」「構造材の墨付・加工」が低く、今後のリフォーム需要を考えた場合、この技能を伸ばすことが必要となる。
- 「木材・木造の知識」の中で「道具の知識と管理」は研修科目に組み込んでいるが実施する地域が少なく、研修の形式を今後見直す必要がある。
- 「労働安全衛生管理」も全体的に実施が低く、またCCUSレベル2に必要な資格の取得も進んでいないことが課題。

【研修風景】

<鹿児島>



<長崎>



<広島>



<広島(福山)>



令和5年度 地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業 (一社)全国住宅産業地域活性化協議会【育成】

<岡山>



<鳥取>



<福井>



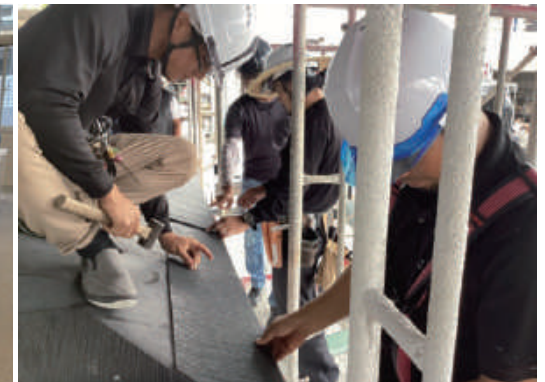
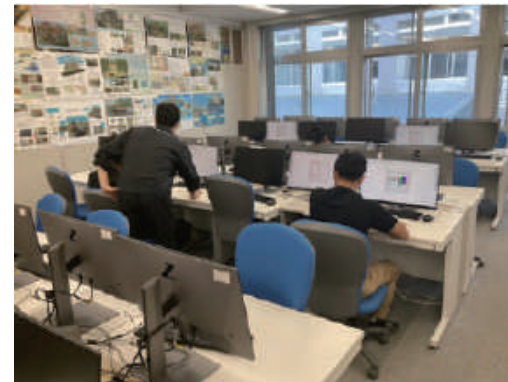
<山梨>



<愛知(岡崎)>



<沖縄>



令和5年度 地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業 (一社)全国住宅産業地域活性化協議会【育成】

【担い手育成委員会】



【全体集合研修】



22



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

伝統技術を活かした大工技能者の育成プログラム

23

令和6年3月5日

(一社)全国古民家再生協会



1-1. 全体概要【育成】

実施地域	群馬県、富山県、岐阜県、静岡県、福岡県、宮崎県、 沖縄県	
研修期間	令和5年8月19日～令和5年11月30日(約4ヵ月)	
受講者数	実数	育成:48名(男性44名、女性4名)
受講者 属性	種別	大工:48名
	年齢構成	20歳未満: 3名 30歳代: 14名
		20-24歳: 10名 40歳代: 16名
25-29歳: 5名		
座学・ 実技研修	座学	28回(各会場:4回)×7会場/10時間
	実技	28回(各会場:4回)×7会場/30時間
	計	56回(総研修時間数:280時間)

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 【座学】10時間
 - ・古民家の構造や変遷、伝統構法の各部位・再築における基準等を学習し、基本的な知識を習得させた。
 - ・修了考査を実施し、知識を習得できたかを確認した。
- 【実技】30時間
 - ・大工道具の使い方から使用する木材の選定方法、課題図面より新材ならびに古材へ墨付け・刻みをして木組みを実施。
 - ・今年度の実技では、新材に加え古民家から取り出された古材を使用した。古民家で使用されていた古材の形状は様々であるため、実際の現場での業務を学ぶことができた。課題は金輪継ぎ、古材兜蟻掛けや2方差しなどで、研修を実施する工務店が受講生の経験年数・実績といったレベルに応じて実施した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 職業能力評価シートで検証した結果、2ヶ月程度の短期間の研修だったためか、若年層の大工はレベル2に到達しなかった。しかしながら、基本的な立ち振舞い、木材・木造の知識の項目は、受講前と比較して点数が20%程度上昇した。
- また技能面は、普段なかなか携わることの少ない墨付けや加工を学び、受講前と比較してレベル1程度の上昇を確認できた。
- さらに、職業能力評価シートで検証することによって、受講者本人が自己評価し、それと講師や上司といった第三者からの評価と対比して、自身のレベルを客観的に見直すことができた。
- 今後の技能向上に繋げる取組となった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 当協会内でも本事業の評価は高く、継続を希望する声が挙がる一方で、現場で職人が不足していることから、仕事のために研修を受講できなかったり、工務店が受講生の受け入れを断念せざるを得ない現状がある。また、受講者を受け入れる工務店にとって、全ての受講者が研修を受講する期間を同時期に確保することが、年々難しくなっている。
- 大工技能者の育成は必要不可欠であり、受講者の参加しやすい環境を構築し、受講者を増やす必要がある。

令和5年度 伝統技術を活かした大工技術者の育成プログラム

（（一社）全国古民家再生協会）【育成】



2-1. 全体概要【確保】

実施地域	動画作成	
事業期間	令和5年7月1日～令和6年1月12日(約7ヵ月)	
受講者数	実数	確保:-名(男性-名、女性-名)
受講者属性	種別	大工関係者:-名
	年齢構成	20歳代:-名 50歳代:-名 30歳代:-名 60歳～:-名 40歳代:-名
座学・実技研修	座学	0回
	実技	0回
	計	0回

2-2. 研修活動等の概要【確保】

- 【社員大工の雇用に向けて動画を作成】
工務店は、社員大工の雇用を促進したいが、長期にわたって雇用を継続することが困難である経営的な課題がある。社員大工の雇用促進に向けて意識を高めるために、実際に社員大工を雇用して成果を上げている工務店3社取材し、広く公開した。
社員大工の雇用のメリットは、技術力や企業の信頼の確保といった点であり、実際に3社において継続的な受注の拡大といった効果が確認できた。
社員として雇用することで発生する経費が、社員大工の雇用を躊躇する大きな理由だが、3社においては受注の拡大によって解決していた。
- 【古民家再生総合調査】
古民家の状況調査を実施するにあたり、古民家再生総合調査(古民家鑑定・伝統耐震診断・床下インスペクション)を実施した。この調査は、古民家鑑定調査票に基づき約500の項目を非破壊での目視による調査を実施。古民家を3Dスキャンし、点群データを取得した。専用ソフトならびに人為的な補正作業を行って、可視化データを作成した。それに解説等を付け加え、データを一般公開した。
伝統構法で建てられる古民家の技術を身近に感じ、古民家を活用できる大工の増加を目指した。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

- 再生回数
古民家の可視化動画(769回再生)
社員大工を雇用・育成へ 富山: 笹川建築 (1, 079回再生)
社員大工を雇用・育成へ 岐阜: 田口建築 (603回再生)
社員大工を雇用・育成へ 静岡: 村澤建築 (1, 712回再生)
- 会員を対象として行ったアンケートでは、半数以上の工務店が社員大工を雇用しておらず、動画を視聴したことで7割程度の企業が社員大工の雇用に前向きな姿勢を示した。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

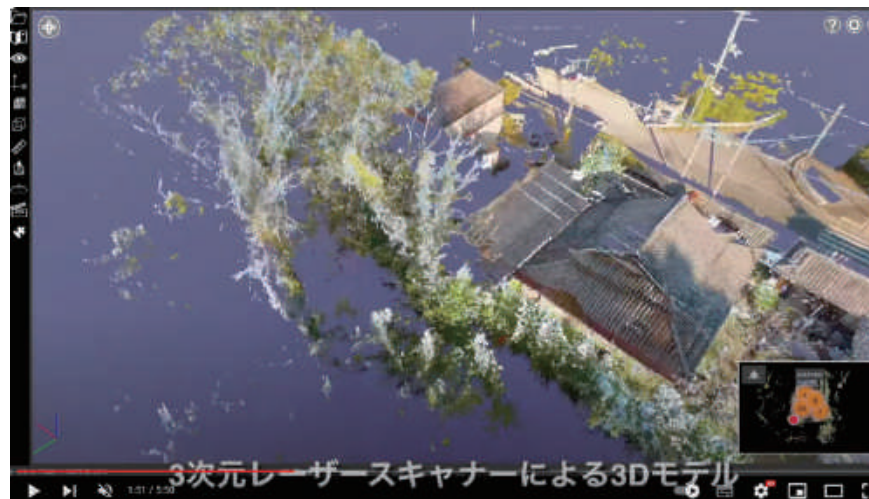
- 工務店は、大工の定着のために社員大工の雇用を希望しているが、若者は社員の特徴である雇用の安定をメリットとして捉えず、むしろ1つの会社に縛られた働き方と捉え敬遠する傾向があり、若者を確保できない課題がある。一方で大工を志すも、大工のなり方や技能を向上させる工務店の探し方が分からない若者が一定数いることが分かった。
来年度は、各工務店の特徴や大工のなり方を伝えるHPや動画の作成などを検討し、工務店とそのような環境を望む大工希望者をいかにマッチングさせることができるかが課題である。



- 社員大工を雇用・育成へ①
(1079回再生)
- 社員大工を雇用・育成へ②
(603回再生)
- 社員大工を雇用・育成へ③
(1712回再生)



- 古民家の可視化動画(769回再生)



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業

28

令和6年3月5日
(一社)日本CLT協会



令和5年度 CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業（（一社）日本CLT協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	石川県、大阪府	
研修期間	令和5年10月14日～令和5年10月21日(うち3日間)	
受講者数	実数	育成:48名(男性47名、女性1名)
受講者属性	種別	大工:37名 型枠工:1 とび工:6名 その他:4
	年齢構成	20歳未満: 0名 30歳代: 13名 20-24歳: 2名 40歳代: 28名 25-29歳: 5名
座学・実技研修	座学	3回(石川会場:1回、大阪会場:2回)
	実技	3回(石川会場:1回、大阪会場:2回)
	計	6回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 実務研修の実施
 - ・座学+実技の2部構成。
 - ・会員企業のイベント会場(大阪府)及び工場内(石川県)にて実施。
- (1)座学(2時間)
 - ・CLTパネル工法の基礎知識及び施工に関するノウハウ等を説明。
- (2)実技(3時間)
 - ・CLTパネル工法の平屋の建屋(3m×3m×高さ2.8m)を実際に施工を実施。
 - ・1チーム10人程度で、2チーム、2棟の施工を実施。
 - ・天井クレーンの使用(石川県)およびフォークリフトをクレーンに置き換えたパネル揚重(大阪府)により実務に近い形での研修を実施。
 - ・実習建屋で使用していない種類のχマーク金物の隠蔽型の金物は、モックアップを製作し、金物納まりを確認できる工夫を行い、CLTパネル工法の金物の理解度を深めた。

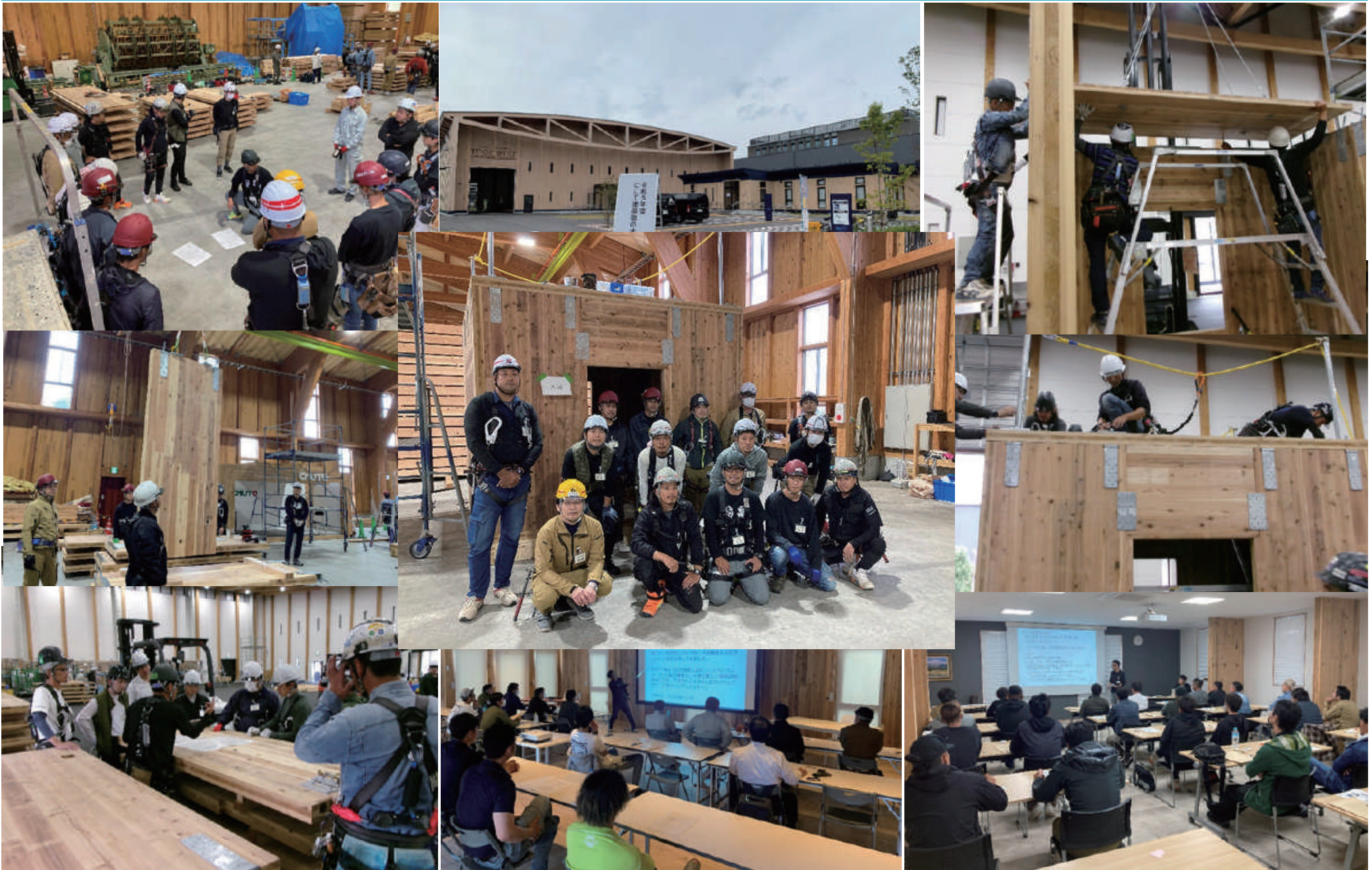
1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- (1)座学
研修終了後に行った確認考査の正解率が70%以上を超え、CLTパネル工法の基礎知識や施工知識を習得できた。
- (2)実技
オリジナルの「実技チェックリスト」を活用し、施工の重要なポイントの理解度のチェックを行った。「理解できた」とする割合が90～96%と、目標の70%を大きく超え、実技の内容をほぼ習得できた。
目的意識は高く、研修終了後の解体作業も見学していく受講者が数多くいた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 研修の質を高め、より実効性のあるものとする。
 - ⇒実技講師のコーチング能力の均一化。
 - ・実技の際の受講者の担当作業のローテーション化(作業の偏りをなくす)。
- 経費を増やさず行なえる、より効率的な研修方法の検討。
 - ⇒地方の主要都市での2日連続開催の継続。
- 受講申し込みの増加を図る。
 - ⇒受講のメリットの強調(募集時に受講者の声の紹介等)。
 - ・ゼネコン、ハウスメーカー等のビルダー組織へのアプローチ。

令和5年度 CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業（（一社）日本CLT協会）【育成】



CLT 躯体工事の手順



大工技術者等の担い手確保・育成事業
実技講習建て方のポイント
 引用書籍:CLT パネル工法低層建築物施工マニュアル

今回の実技講習を実施するに当たって

1. 平屋建て CLT 棟の建て方

- 床・壁・天井の各 CLT パネルの施工方法を実習する。
- Xマーク表示金物等の取付方法を実習する。
- 基礎と壁パネル : 引きボルト
- 床と壁 : せん断金物 LST
- 壁と腰壁, 垂れ壁 : せん断金物 SP
- 壁と天井 : 引張金物 TC-90+座金 W16
- 天井相互 : せん断金物 LST
- 天井相互 : 帯金物 STF

2. 天井クレーン を使用

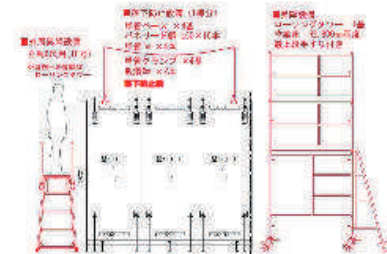
工場内の施工であるが、現場に近い想定を考え、天井クレーンを使用した施工とする。

注意 通常は重機（移動式）クレーンを使用する。

3. 今回使用する安全設備

- 昇降設備（ローリングタワー）
- 落下防止設備（単管+親綱、および落下防止網等）
- 外周昇降設備（立馬6尺用）

注意 天井への昇降はローリングタワーを使用する。

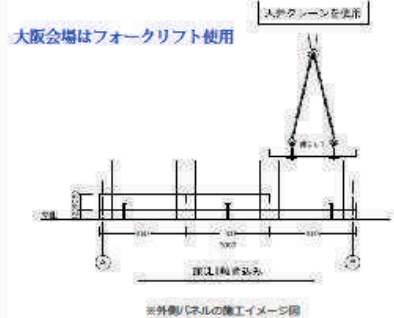


1 CLT 床パネル敷き込み

- (1) 玉掛け作業
 - ・アイボルトを取付ける。(外側パネルのみ)



- (2) CLT 床パネルの敷き込み
 - ①外側パネル → ②中間パネル → ③外側パネル



- (3) CLT 床パネル相互の接合
 - ・合板スプラインをビス留めする。(＠200-2列)
 - ※ビス留めは溝深さ150-2列の場合が多い(計算等による)

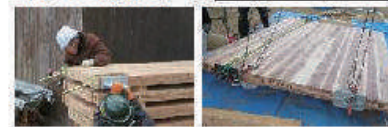


- (4) 土台（外周・中間部）と CLT 床パネルの接合
 - ・長ビスで留め付ける。全 22 箇所
 - ※通常土台の上部に床パネルを設置し接合する施工現場はほとんどない

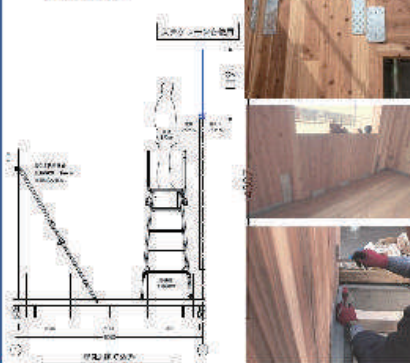
2 CLT 壁パネル建て入れ

- (1) 金物の取付け
 - ・壁頭部に引張金物 TC-90、せん断金物 LST、垂れ壁パネル、垂れ壁パネルにせん断金物 LST、SP を適宜、取付ける。
- (2) 玉掛け作業
 - ・吊り具を取付ける。

	t=90	t=120	t=150
1m×3m	135 kg	180 kg	225 kg
2m×3m	270 kg	360 kg	450 kg



- (3) CLT 壁/パネルの建て入れ
 - ・仮建ての方サポートを用いる。
 - ・引きボルトのナットを仮止めする。
- (4) CLT 腰壁パネルの建て入れ
 - ・せん断金物 SP で仮止めする。
- (5) CLT 垂れ壁パネルの建て入れ
 - ・せん断金物 SP で仮止めする。
- (6) CLT 壁/パネルの割れを確認する。
 - 【建て方精度】 壁の割れ: 2~3mm程度 (e ≤ H/1000mm)
- (7) その他の金物の取付け
 - ・壁脚部にせん断金物 LST、その他の金物を適宜、取付ける。



3 CLT 天井パネル敷き込み

- (1) 玉掛け作業
 - ・アイボルトを取付ける。
- (2) CLT 天井パネルの敷き込み
 - ・手順は床パネルと同様
 - ・落下防止設備を設置 (単管+親綱、および落下防止網等)
- (3) CLT 天井パネル相互の接合
 - ・合板スプラインをビス留めする。
 - ・帯金物 STF を留め付ける。
- (4) CLT 天井パネルと CLT 壁/パネルの接合
 - ・角座金 W16 をナットで締め付ける。
- (5) 残っている全ての金物を取付ける。



4 上棟

- (1) 引きボルトのナットを本締めし、全ての金物のタッピングねじが正確に打ち込まれているかを確認する。
- 重要** CLT パネル工法は金物接合であるため、多くの金物を使用する。その金物が全て正確に留め付けられているかが重要となる。


主催:一般社団法人日本 CLT 協会

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

北海道の工務店ネットワークによる大工育成

32

令和6年3月5日
(一社)北海道ビルダーズ協会



令和5年度 北海道の工務店ネットワークによる大工育成（（一社）北海道ビルダーズ協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	北海道(札幌、函館)	
研修期間	令和5年6月17日～令和6年1月16日(約7ヵ月)	
受講者数	実数	育成:48名(男性47名、女性1名)
受講者属性	種別	大工:48名
	年齢構成	20歳未満: 6名 30歳代: 6名 20-24歳: 24名 40歳代: 9名 25-29歳: 3名
座学・実技研修	座学	9回(札幌会場:7回、函館会場:2回)
	実技	6回(札幌会場:6回)
	計	15回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 大工育成委員会 5回(委員10名)
全道各地の工務店経営者と技術専門学院・高校の教職員を委員とし、各研修会の計画・受講者の募集の検討を行った
- 技能向上研修会 6回(実技研修)
初級・中級・上級レベルの実技課題を中心に、裏目を使ったさしがねの活用法など規矩術の基礎知識と原寸図の作成及び墨付け・加工・組立の研修を行った。
- 新人大工座学研修会 4回(座学研修)
1年目となる新人大工に木造住宅の構造・断熱など、大工としての基礎知識に関する研修を、
2年目となる新人大工には工務店の大工としての役割と窓の性能について研修を行った。
- 基本技術研修会 5回(座学研修)
CCUSレベル2に必要な安全教育を中心に、労働環境・解体作業における石綿の取り扱いなどの研修を行った。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 技能向上研修会
初級・中級・上級レベルの実技課題をそれぞれの受講生が完成させた。独自の採点方法によって技能士合格レベルの判定を行い、評価目標(70点以上)を15名中14名が達成した。
- 新人大工座学研修会
大工技能の基礎知識に関する確認テストで、正解率目標(70点以上)を13名全員が達成した。
- 基本技術研修会
新人大工をはじめ、昨年までに受講できなかった大工職人に対し研修を行った。確認テストで正解率目標(70%以上)を30名全員が達成した。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

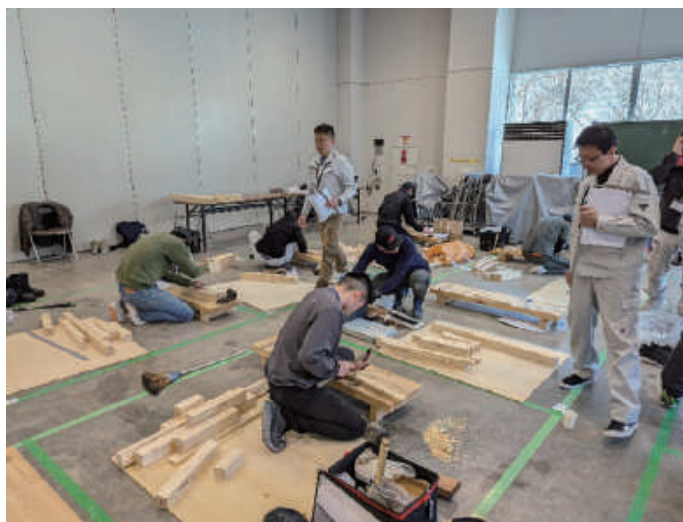
- 北海道では広域に工務店が点在しており、札幌市だけでの開催では、参加が困難な地域も多い。今後は各地域にある組合組織などの他団体との連携を検討し、受講者の確保と地域開催への取組を行う必要がある。
- 現場での育成指導を円滑に行うためには、指導大工に対する指導員研修を行う必要がある。
- 育成の実技研修に応急仮設住宅などの施工実習を盛り込み、災害に向けての準備と大工の育成を複合して行うなどして、効率的な育成を検討する必要がある。



34

技能向上研修会

(対象:新人大工・中堅大工。原寸図作成や墨付け、加工に関する指導)





35

新人大工座学研修会(新人大工の心構えや必要な能力、木造住宅の構造、窓の性能について)





36

基本技術研修会(対象:若手大工。足場の組立、電動工具の取扱い、石綿障害防止及び関連法令について)



令和5年度 北海道の工務店ネットワークによる大工育成（（一社）北海道ビルダーズ協会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	北海道	
研修期間	令和5年5月1日～令和6年1月26日(約9ヵ月)	
受講者数	実数	確保:122名(男性109名、女性13名)
受講者属性	種別	大工関係者:60名 その他(役員・指導者等):62名
	年齢構成	20歳代:53名 50歳代 : 7名 30歳代:16名 60歳代~:17名 40歳代:29名
座学・実技研修	座学	6回(札幌会場:6回)
	実技	0回
	計	6回

2-2. 研修活動等の概要【確保】

- ガイドブック研修会 2回(参加者43名)
昨年まとめた「地域工務店経営者のための 大工さん育成ガイドブック」を印刷・製本し、全道の工務店経営者等に研修会を行った。
- DXを活用した働き方改革研修会 1回(参加者19名)
働き方改革(休日・賃金・処遇改善等)及び業務効率化に向けたDXツール(労務管理ソフト等)の活用方法(時間外労働上限規制対応や業務の標準化・効率化の方法)について研修を行った。
- 職業説明会 1回(参加者20名)
道立技術専門学院にて、工務店の実際の仕事内容や現場の様子など、就職後の新人大工に必要な技能について研修を行った。
- 社会見学研修会 2回(参加者40名)
工務店の作業場と建設中の現場を見学し、実際の大工の作業や職場を見て入職への不安を払拭するための研修会を行った。
- 大工育成委員会 1回(委員10名)
新人大工に向けた新人大工教育・育成用の新人大工マニュアル「大工さん育成ガイドブック(新人大工編)」を作成した。さらに、大工を目指す方に向けて、大工の魅力を伝える動画を作成・公開した。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

- ガイドブック研修会では、住宅系新聞に掲載されたことにより問い合わせが多数あり、2回目の追加開催を行う運びとなった。
- DXを活用した働き方改革研修会では大工の確保と育成に取り組む工務店経営者が社員化と労働環境の整備を開始した。
- 職業説明会では、個別の質疑対応を行い、実際の労働条件や大工の仕事と暮らしなどを伝え、当協会の工務店へのインターシップ希望者が増えた。
- 社会見学会では、札幌と旭川の技専の生徒が参加し、実際の現場を見ることによって当協会工務店への就職希望者が増えた。
- 大工の魅力を伝える動画を作成し、YouTubeで公開した結果、2ヵ月ほどで視聴回数が3,000回を超えた。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

- 依然として大工という職業に興味を持つ若者は少なく、今後は中学校や普通科の高校などへの説明会も開催し、建設業の魅力を伝える必要がある。
- 労働時間の長さや休みの少なさなど、建設業に対する悪いイメージを払拭するためにも工務店経営者向けの研修会を行い、労働環境の整備を促進する必要がある。
- 新人大工向けのガイドブックを印刷・製本し、入職した新人大工が離職しないためにも入職後の研修会を行う必要がある。



ガイドブック研修会 (対象:工務店経営者。入職活動支援について)



令和5年度 北海道の工務店ネットワークによる大工育成 ((一社)北海道ビルダーズ協会)【確保】



39

DXを活用した働き方改革研修会(対象:経営者・管理職者。休日・賃金・処遇改善及びDXツールの活用方法について)





職業説明会

(大工を目指す生徒に向けた工務店の内容、大工職の技能、心構えについて)





41

社会見学研修会 (大工を目指す生徒に向けた工務店の作業場や建設現場の見学)



新人大工に向けた心構え、基礎知識、現場作業内容、目指す資格、キャリアパス等についてのガイドブック

大工さん育成ガイドブック (新人大工編)



一般社団法人 北海道ビルダーズ協会

はじめに

大工さんは家づくり・ものづくりに活躍し、社会や地域の方々にとって身近な存在です。大工さんとして働くことは家やものを作る楽しさや、完成時の達成感、自分で作った家に住んでもらったり、ものを使ってもらうことのうれしさなどを感じることができる職業です。そして、工務店にとって最も大切なパートナーは大工さんです。

多くの工務店が、建設業界は3K（きつい、汚い、危険）のイメージを払拭していくことに意欲的な取り組み、意欲ある若者にとって工務店が魅力ある職場であり、かつ大工さんが将来に渡って希望を持つことができる職業であるための取組を行っていますので、安心して働いてもらいたいと思います。

大工さんは、木造住宅がメインである日本の住文化の担い手として極めて大事な職業であり、人材です。日本社会において大工の技能はほかの職種・商業と代替することができない社会資産と言えます。

これから社会に出るみなさんは、将来への希望と期待とともに、大工さんとして「働くこと」に対して不安をお持ちかもしれません。

このガイドブックは、大工さんを目指す若い方々に手を取っていただき、今後、就職して社会人として活躍されるみなさんに、大工及び社会の一員としてぜひ知っておいてほしい心構えや基本的なことをまとめています。

そして、若くて将来の可能性が開かれているみなさんが、大工さんとして、大いにご活躍されることを願っています。

1. 大工さんとして働くということ

(1) 工務店に就職した時

工務店に就職した時、社会人としてのマナー及び大工職としてのマナーをきちんと身に付けましょう。

- 以下に、身に付けるべき主なマナーを整理します。
- ・挨拶・礼儀など、現場などでのマナーの習慣づけ
- ・現場などの整理・整頓・清掃の習慣づけ
- ・常に、安全行動の習慣づけ

(2) 社会人としての自覚

会社の一員となった時、会社が支払う給料の全額をそっくりそのまま手にできるわけではありません。会社が支払う給料（合計支給額）から健康保険料や税金などを差し引いた額（合計控除額）が手にできる額（手取額）となります。


就職して会社から給与が支払われるようになった時には社会人として健康保険料と税金を支払う義務があります。

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

被災地宮城における大工技能者担い手育成・確保

43

令和6年3月5日
(一社)東北建設技能協会



1-1. 全体概要【育成】

実施地域	宮城県(富谷市、栗原市、加美町、石巻市)	
研修期間	令和5年7月22日～令和6年1月13日(約6ヵ月)	
受講者数	実数	育成:20名(男性18名、女性2名)
受講者属性	種別	大工:20名
	年齢構成	20歳未満:2名 30歳代:2名 20-24歳:4名 40歳代:7名 25-29歳:3名 50歳代:2名
座学・実技研修	座学	1回(富谷市:1回)
	実技	28回(富谷市:25回、栗原市、加美町、石巻市:各1回)
	計	29回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 【座学】
大学建築学部教授・工学博士を講師に招き、木材に関して植生や素材としての特性などの基礎的知識から、最新の研究成果(木造校舎に人為的に火災を発生させ耐火性を検証した結果、木造建築の耐久年数は鉄筋コンクリートに劣るものではない等)などの講義を実施した。
- 【実技】
家が一軒建つまでの一連プロセスを習得を目的として、図面の見方から墨付け、刻み、足場組み立て、基礎工事、平屋の建て方実践、棟上げまで行った。プレカット材を使ったリノベーションの研修を実施した。さらに、建設用重機の運転操作、測定の基礎、ドローン操作など、多能工として必要な周辺知識や技能も習得した。
- 【見学会】 [確保]と合同で実施。
石巻市の木材の生産加工業者の協力を得て、山林での植樹、伐採後の加工、燻煙方法など、天然木が建築材になるまでの工程を見学した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- ①座学:木材に関する基礎的な知識から最新の研究成果など、新たな知見を得ることができた。
- ②実技:木造住宅建築の全工程を学び、伝統的な手作業での刻み、電動工具の使い方、プレカット材の活用など、多様な技能を伸ばすことができた。さらに、測量や重機操作の初歩も習得できた。
- ③見学会:山林での植樹の様子や、リノベーションによる住宅再生の実例を体感できた。
- ④被災地復興、建替え・リフォーム等の需要に応え、現場に貢献できる人材を育成できた。

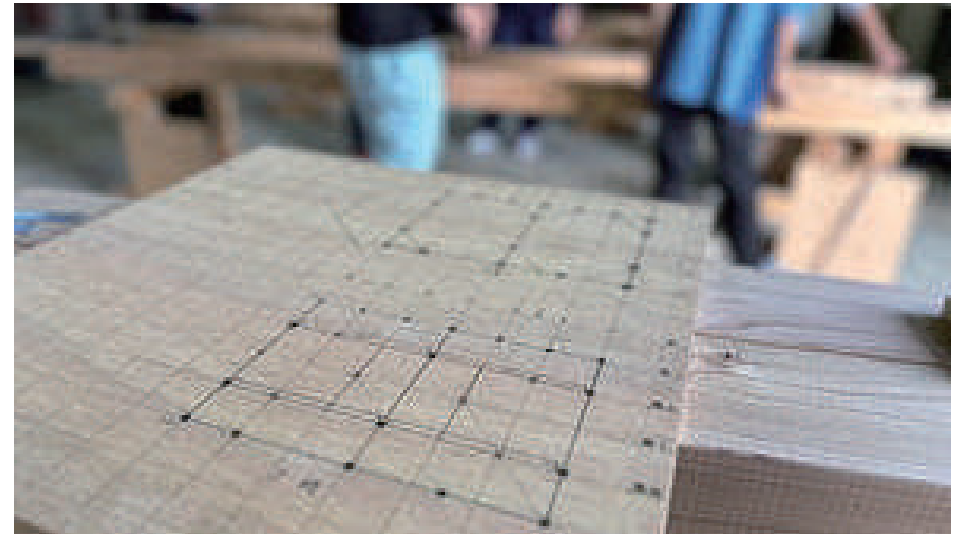
1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 出席率の維持
受講生が就業者なため本業を優先し、やむなく欠席することがある。

対応策として、受講生の就業先に、個人参加ではなく企業の研修の一環という位置付けで、参加できないか働きかける。



安全衛生教育



図面(手板)書き



手道具による刻み作業



電動工具の取り扱い



建て方：土台



建て方：梁



足場組み



建て方：柱、棧



屋根掛け



上棟式



プレカット材を活用した建て方



リノベーション作業



階段設置



木造平屋建て 一棟全景

48



座学研修：木材の概論、耐火性・耐久性、等



現場見学：石巻市山林、植林作業



現場見学： 栗原市、燻煙工場



安全講習： フルハーネス安全帯



測量



ドローン操縦



重機講習： バックホーの運転操作



重機講習： 小型移動式クレーンの運転操作、玉掛け

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	宮城県(岩沼市)	
事業期間	令和5年9月1日～令和5年12月20日(約4ヵ月)	
受講者数	実数	確保:10名(男性10名、女性0名)
受講者属性	種別	大工関係者:0名 その他(学生):10名
	年齢構成	20歳未満:6名 20-24歳:4名
座学・実技研修	座学	0回
	実技	5回
	計	5回

2-2. 研修活動等の概要【確保】

建築に関する基礎知識はあるが、実際の現場経験がない学生を対象に、即戦力となるような実技研修を実施した。

○東北電子専門学校建築科

大工技能検定3級の実技に相当する技能を習得する。

課題:切妻屋根の一部を製作。

- ・制作物の図面の作成、木材への墨付け、手道具による刻み加工、組み立てをする。
- ・柱・桁・梁を3軸にそれぞれ直行させ、ほぞ組で接合し、束と垂木を加え小屋組みする。
- ・成果物が、荷重に対し歪まず十分な強度を発揮できるよう、工作精度を追求する。

○【見学会】[育成]と合同で実施。

石巻市の木材の生産加工業者の協力を得て、山林での植樹、伐採後の加工、燻煙方法など、天然木が建築材になるまでの工程を見学した。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○大工技能検定3級程度に相当する技能を概ね習得し、桁・梁・束・棟木など木造家屋の構造材を加工・組み立てることが出来るようになった。

○リノベーションに関する基礎的かつ実践的な技能を習得し、新たに造作が必要な部分の構造と工法を考え、効率的に作業するためのプランを考えることが出来るようになった。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○研修内容の見直し

少ない研修回数で高い学習効果を得るため、受講者の能力・適性に応じた研修内容の見直しが必要。

対応策として、受講の申込を受け付けた時点でアンケート等を実施し、事前にスキルレベルを把握して、研修内容を検討する。



大工技能の基礎



大工技能の基礎

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域工務店が取組む働き方改革及び 『大工育成規矩術研修』

53

令和6年3月5日
(一社)福島県工務店協会



1-1. 全体概要【育成】

実施地域	福島県(福島市)	
研修期間	令和5年8月19日～令和5年11月12日(約3ヵ月)	
受講者数	実数	育成:10名(男性10名)
受講者属性	種別	大工:10名
	年齢構成	20歳未満:2名 30歳代:2名 20-24歳:5名 40歳代:0名 25-29歳:1名
座学・実技研修	座学	2回
	実技	16回
	計	18回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○対象:新人・中堅技能者

○【実技】全16回(120時間)

規矩術を中心とした内容。

差し金の使用方法、展開図を起こして墨付けを行い、木ごしらえから刻み作業など、代表的な木材加工の基礎及び階段造作を学ぶことで、大工としての基本技能を習得。

- ・道具の使用方法 ・刃物の手入れや研ぎ方等の基礎
- ・安全な作業姿勢の習得 ・階段造作演習 ・墨付け、刻み、加工、組立等の規矩術演習 ・墨付け加工の技術指導
- ・差し金の基本 ・展開図演習 ・屋根の墨付け
- ・材料の木ごしらえ ・総括演習

○【座学】全2回(8時間)

- ・社会人マナー及び安全衛生教育
- ・コミュニケーション研修

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○【実技】受講者の受講前の能力を講師が確認した。繰り返し規矩術を学ぶことよって、展開図・墨付・刻み・加工の技能が向上した。

技能の上達を実感すると、更なる技能の習得を目指す声も出たことから、技能者としての意識向上にも効果があった。

○【座学】技能者としての安全作業の心得や現場での振る舞い、40代以上の先輩・上司と働く環境での情報共有の方法や業務に対する意識について学んだ。

○受講前後の能力評価シートを比較すると、特に『道具の知識と管理』『構造材の墨付・加工』の点数の上昇を確認できた。

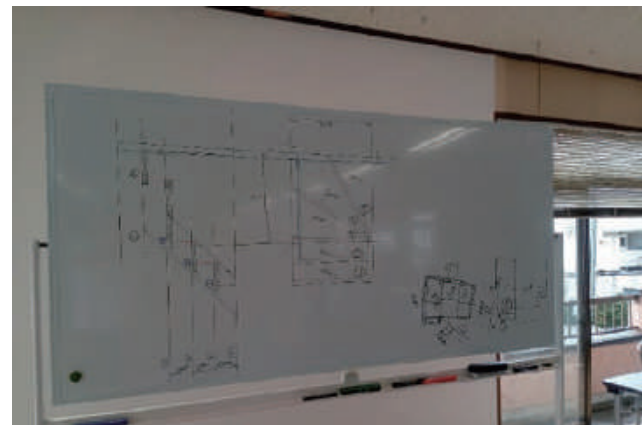
1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○本研修会は、中小工務店で働く者にとって同じ境遇の仲間と横の繋がりを持つことができ、受講者同士が気軽に悩みを相談し、解決策を見つける場としても有効である。育成には一定の時間をかける必要があるため、継続的に開催する必要がある。

○受講者の中には次年度以降の開催を望む声もあり、レベルを上げたコースを選択できるような工夫をし、受講者の実情にあった研修を検討する。

令和5年度 地域工務店が取り組む働き方改革及び『大工育成規矩術研修』

（（一社）福島県工務店協会）【育成】



令和5年度 地域工務店が取り組む働き方改革及び『大工育成規矩術研修』 ((一社) 福島県工務店協会)【育成】



56



2-1. 全体概要【確保】

実施地域	福島県(郡山市)	
事業期間	令和5年5月1日～令和6年1月12日(約8ヵ月)	
受講者数	実数	確保:13名(男性8名、女性5名)
受講者属性	種別	工務店・内装業経営者:9名 総務・経理・管理職:4名
	年齢構成	20歳代:0名 50歳代:6名 30歳代:2名 60歳～:1名 40歳代:4名
座学・実技研修	座学	2回
	実技	なし
	計	2回

2-2. 研修活動等の概要【確保】

- 【座学】職場環境改善研修会 全2回
- 対象:経営・労務管理者等
- 【第1回】就業規則と労務管理を活用した職場環境の改善手法を学び、自社の課題や問題点を把握し、労働環境や若年労働者の定着率の向上へ取り組むために、経営者・労務管理者の意識向上を図った。
- 【第2回】若年入職者確保のための就業規則の整備や採用活動及び社員大工確保のための社内教育や待遇改善について
 - ・離職者がなぜでるのか?問題点を探り改善:他産業と比較した建設業雇用状況実態を説明
 - ・職場定着率を上げるために必要な対応:雇用者側から見た働きやすい会社の学び
 - ・業界として建設業のイメージUPにつなげる改善
 - ・大工を正社員とするために必要な就業規則改善等
 - ・ハラスメント対策:ハラスメント実例の学び

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

- 建設業労務管理の現状を知り、今後必要とされる手法を学び、各社の抱える問題点を顕在化することで、変化の必要性を認識してもらうことができた。
- 働く側から見た働きやすさを学び、社員定着率の向上を図るため、諸手当を活用した適正給与や人事評価制度運用の必要性を認識してもらうことができた。
- 新規入職者を獲得するための環境はますます厳しくなり、それを乗り越えていくためにも労務管理の整備も必要だと認識してもらうことができた。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

- 受講者の中には、雇用契約や解雇事由に悩みを抱える者や、社員の残業の多さを解消するための方法を見出せずに悩んでいる者、採用活動に不安や不満を抱えている者など、問題は会社ごとで異なり、多様化している。
- そのため、本研修会のように工務店に特化した労務管理を学べる機会を定期的に設けることが必要である。

令和5年度 地域工務店が取り組む働き方改革及び『大工育成規矩術研修』 ((一社) 福島県工務店協会)【確保】




大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の 社員大工への大工育成プログラム

59

令和6年3月5日
(一社)東京大工塾



令和5年度 一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の社員大工への大工育成プログラム ((一社)東京大工塾)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	埼玉県、東京都	
研修期間	令和5年5月1日～令和5年12月31日(約8ヵ月)	
受講者数	実数	育成:10名(男性9名、女性1名)
受講者属性	種別	社員大工:10名(見習いを含む)
	年齢構成	20歳未満:5名 20-24歳:4名 25-29歳:1名
OJT	OJT指導	144日/人×10名=(1440日)
	指導内容	安全衛生、道具の使用と手入れ 作業工程、作業方法 等

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 当団体に所属する工務店が大工を正社員として雇用。
- 入塾生10名のOJT指導については、当会と工務店の間で「OJT指導契約」を締結。
- 当会と工務店によって選定された指導者が、作業前に現場の危険な箇所・危険予測・禁止事項・整理整頓などの安全衛生面を指導した。
工具については、利用頻度の高い丸鋸の取り扱い方法や安定した台での作業・切断部材を抑える手は、工具より先に置かないこと・キックバックの危険性・安全カバー脱着の禁止等を指導した。
- 指導者の評価点60点を目標値として、職業能力評価シート「労働安全衛生管理」や「道具の知識と管理」等の7項目(92点満点)について、習熟度の確認をした。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 「OJT指導契約書」に沿った指導を実施。塾生全員が、道具の使い方や工事工程の流れ、安全面等を学び、理解する事ができた。
- 職業能力評価シートを活用し、受講生、指導者、雇用者(もしくは上司)の3者間で習熟度を検証した結果、道具の扱い方・ボード施工・壁面材施工・養生・野縁施工・断熱施工などの技能の習得が確認できた。職業能力評価シートによる評価点数は、受講者10名の内50点以上が3名、60点以上が1名だった。目標点数(指導者の評価点60点)には到達しなかったが、受講前の指導者の評価の平均点が29.7点から受講後は50.6点と、受講生の成長を確認できた。特に、コミュニケーション能力・現場マナーの項目の平均点数が5.5点から10点に上昇した事から、円滑なコミュニケーションがとれていること、整理整頓等の安全衛生指導の効果を確認できた。
また、研修を通して早く作業をすることよりも、丁寧に作業する方が安全で効率的であるといった業務に対する意識向上にもつながった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- OJT指導によって木材軸組工法の理解度は深まったが、新人大工は社会経験が少ない為、挨拶や報連相などの基本的な社会人マナーは十分に身に着かなかった。
- 来年度の取組として、新人大工向けのコミュニケーション研修を検討する。
上司や作業員、他職種の人達からの問いかけにもハキハキと答える。不測の事態が発生した場合でも、直ちに上司や周りの作業員に報告・相談し、指示に従って冷静に行動できる大工を目指す。

OJT指導風景



床施合板施工 指導



床施合板施工 指導



ボード施工 指導



化粧材面取り



養生材施工

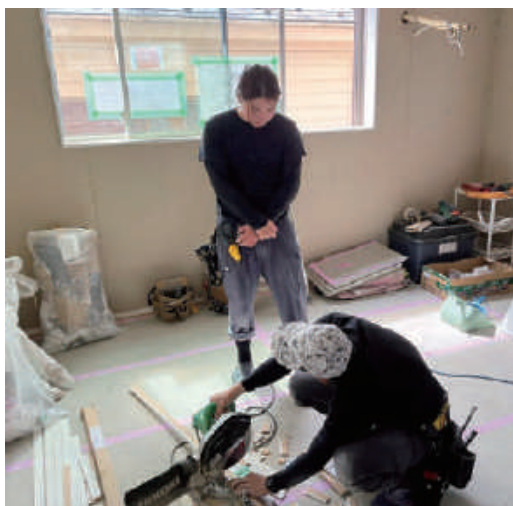


ボード施工

OJT指導風景



下地施工 指導



丸鋸利用方法 指導



野縁施工 指導



枕棚施工 指導



丸鋸作業



ボード施工



下地施工



枕棚 施工

令和5年度 一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の社員大工への大工育成プログラム ((一社)東京大工塾)【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	東京都	
事業期間	令和5年6月1日～令和5年12月7日(6ヶ月間)	
受講者数	実数	17名(男性16名、女性1名)
受講者属性	種別	指導者等:17名(男性16/女性1)
座学	回数・会場	6回(岡庭建設モデル棟:6回×2時間)
	内容	<p><指導者向けコミュニケーション研修> 講師:(一社)話力総合研究所 1回目:話し方の基本を身につけよう(6/1) 2回目:聴き方の基本を身につけよう(7/20) 3回目:相手にあわせた説明のしかたのコツをつかもう(8/31) 4回目:対人関係を円滑にする工夫をしよう(10/19) 5回目:効果的かつ現代的な指導方法を学ぶ その1(11/10) 6回目:効果的かつ現代的な指導方法を学ぶ その2(12/7)</p>

2-2. 研修活動等の概要【確保】

- (一社)話力総合研究所の秋田 義一理事長を講師に迎え、当会に所属する工務店の指導者、及び将来の指導者を対象としたコミュニケーション研修を実施した。
- 指導者が本研修を受ける事によって「コミュニケーション能力」の向上を図り、部下や後輩のやる気を高め、技能を効果的に習得させる現代の対話型指導方法を身につける。
- 受講者(指導者等)の指導方法をより効果的にする為に、毎研修時に「成果が出たらしっかり褒める」「部下の理解度を考慮して、相手に適した指導を心がける」などの約束を宣言し、その内容を上司等と共有した。講師からの「褒める事は相手のモチベーションも上がります。直接でも電話越しでも、他者から伝えるでも良いので具体的かつ積極的に褒めてあげてください。」「相手に理解してもらえない場合、つい感情的になってしまう事もあるでしょう。その際は、必ず一呼吸置いて冷静になってから、適した指導を心がけてください」などのアドバイスを日々の指導に活かしていく。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

- 指導者が「出来て当たり前」「自分の指導方法に間違いはない」といったこれまでの指導方法の問題点を把握できた。また毎研修時に、自身で実践する内容を宣言する事によって、指導方法を自ら見直すきっかけになった。
- 部下を指導する際、聴く力・相手の理解度に合わせて説明する・話しやすい環境をつくる・成果が出たら具体的に褒める・忠告する際は1点のみ、などの具体的な指導方法を学び、指導者の意識改革にも繋がった。
- 今までは、部下の技能が上がっても褒めなかった指導者が、受講後には「部下のやる気を出させる為に、まずはやらせてみてきたらきちんと褒める」といった指導を行った。その結果、指導を受けた若手大工から「今まで何も言われなかったのに、自分の仕事について褒められた。きちんと見てくれているんだとやる気につながった」という声があがった。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

- コミュニケーション研修で学んだ現代の効果的な対話型指導方法、「やってみせ・言って聴かせ(説明)・させてみせ(自発意思を起こさせる)・やる気を出させ(褒める)・改めさせる(アドバイス)」を取り入れた冊子「(仮称)指導者の心得」の作成を検討する。今後、指導者の育成の一助としていく。コミュニケーション研修講師の秋田義一理事長も交えて検討する。

指導者向けコミュニケーション研修 風景



第1回目:話し方の基本をみにつけよう



第1回目実習:自己紹介の訓練



第2回目:聴き方の基本を身につけよう



第2回目実習:きき方の訓練



第3回目:相手に合わせた説明のしかたのコツをつかもう



第3回目実習:相手に伝える、わからせる訓練

指導者大工向けコミュニケーション研修 風景

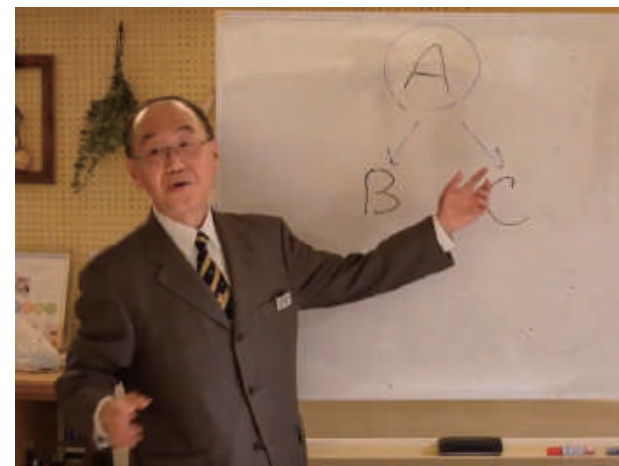
65



第4回目:対人関係を円滑にする工夫をしよう



第4回目実習:会話を楽しくする意識を継続する訓練



第5回目:効果的かつ現代的な指導方法を学ぶ その1



第5回目実習:事実をほめる訓練



第6回目:効果的かつ現代的な指導方法を学ぶ その2




第6回目実習:注意・忠告の体験談と意見交換

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

新潟の大工職人、技能伝承・育成事業

66

令和6年3月5日
(一社)にいがた木造建築協会



1-1. 全体概要【育成】

実施地域	新潟県(燕市)	
研修期間	令和5年8月24日～令和5年12月2日(約4ヵ月)	
受講者数	実数	育成:5名(男性5名、女性0名)
受講者属性	種別	大工:5名
	年齢構成	20歳未満:0名 30歳代:3名 20-24歳:2名 40歳代:0名 25-29歳:0名
座学・実技研修	座学	2回
	実技	6回
	計	8回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 【座学】「棒隅木小屋組」「振れ垂木小屋組」の2つを課題とし、基本的勾弧弦、小屋組や展開図の書き方等について研修を実施した。
 - ・今回の課題以外の伝統的小屋組み工法にも対応ができるよう、基本的な規矩術(勾弧弦)を解説した。
 - ・さらに、展開図が書けることによって小屋組の各部材寸法が分かること、展開図を基に墨付け・加工を行うこと、様々な小屋組に適応でき実用的に活用できることなど、展開図で何ができるのかを説明し、展開図の書き方を解説した。
- 【実技】「住宅内部廻り階段」
 - 「住宅内部廻り階段」を課題とし、原寸図の書き方、墨付け・刻みの方法、組立まで、実践的な研修を実施した。実際のスケールの1/3サイズで、原寸書きを行い、納め方手法を理解させる。合わせて部材の墨付けにも取り組んだ。今年度の受講生は、実際の現場での階段造作が未経験だったが、実際の現場に対応できる部材の加工・刻み、組立までの一連の工程を学んだ。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- レベルアップ1を目標として、また研修後の技能を総合的に評価するために、職業能力評価シートを活用した。中には達成できなかった受講生もいたが、全受講生の点数が4点～34点上昇した。
- 大工職業能力評価シートとは別に、研修の内容に特化した項目について、講師や受講生が評価するオリジナルシート(100点満点)を作成した。
 - 結果、平均点が70点を超えており、基礎的な棒隅木・振れ垂木の展開図や内部階段の原寸図の書き方、墨付け、刻み、組立までについて理解できたことを確認した。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- これまで受講生の募集は、関連団体や職業訓練校の卒業生、地元の工務店等に案内を送付していた。昨年度は、9名の受講生を迎えられたが、今年度においては受講生が5名だった。募集方法の改善が必要である。一方で、少人数での研修だったため、十分な個別指導ができた。
- 若手大工が少ない中、伝統的スキル・技法を習得してもらうために研修を実施しているが、受講生を出していただく事業主との開催の意義について温度差を感じることもある。本事業のアピールや周知する方法の検討が必要である。

座学:「棒隅木小屋組」・「振れ垂木小屋組」研修会



実技:「住宅内部廻り階段」研修会



実技:「住宅内部廻り階段」研修会



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

静岡大工育成PROJECT2023

令和6年3月5日

(一社)富士山木造住宅協会



令和5年度 静岡大工育成PROJECT2023 ((一社)富士山木造住宅協会)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	静岡県(西部:磐田市 東部:富士市)	
研修期間	令和5年7月4日～令和6年1月23日(約7ヵ月)	
受講者数	実数	育成:19名(男性17名、女性2名)
受講者属性	種別	大工:19名(内 現場監督兼務:4名)
	年齢構成	20歳未満:5名 30歳代:4名 20-24歳:6名 40歳代:3名 25-29歳:1名
座学・実技研修	座学	5回(西部会場:2回、東部会場:2回、西部、東部:合同1回)
	実技	26回(西部会場:14回、東部会場:12回)
	計	31回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 1年目の受講生は、木造技能者育成検討委員会が設定した職業能力基準レベル1を目標とし、2年目、3年目の受講生はレベル2を目標とした研修を実施した。
- 【実技】西部会場(磐田市)
 - 1年生【9坪木造住宅の墨付け、手刻み加工、建て方】
 - 2年生【廻り階段の墨付け、手刻み加工及び階段の設置】
 - 3年生【小規模倉庫の墨付け、手刻み加工、建方】
- 【実技】東部会場(富士市)
 - 1年生【9坪木造住宅の墨付け、手刻み加工及び建て方】
 木造住宅の構造躯体の完成と台持ち継ぎ・追掛大栓継ぎ・金輪継といった手刻みの応用編も実施することができた。
- 【座学】東部・西部共通
 - 木造住宅の構造と架構と力の流れ、建築基準法・関連法令
 - フラット35 木造住宅の標準仕様書について、研修を実施した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

静岡県のJBN連携団体の富士山木造住宅協会と静岡木の家ネットワークが連携することにより、5年間で100名の新人大工を育成することができた。

施工法や規矩術、機械化された作業の中で失われつつある墨付け・手刻み等の幅広い技能を習得できた。

静岡県内の新人大工育成の体制整備の実現につなげることができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

受講生の技能に差があるので、研修の実施期間の後半に、個別カリキュラムの必要性を感じた。

大工の育成活動を5年間行ってきたが、本取組の周知が静岡県内の新人大工にまだまだ足りないことから、関係団体及び行政等と連携し、今年度(20名)より多くの参加者を集め、担い手を育成していきたい。

令和5年度 静岡大工育成PROJECT2023 ((一社)富士山木造住宅協会)【育成】



令和5年度 静岡大工育成PROJECT2023 ((一社)富士山木造住宅協会)【育成】




大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域ネットワークによる大工技術者確保・育成事業

76

令和6年3月5日
愛知県建設団体協議会



令和5年度 地域ネットワークによる大工技能者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	愛知県（名古屋市、愛西市、碧南市）	
研修期間	令和5年8月20日～令和5年10月22日（約2ヵ月）	
受講者数	実数	育成：14名（男性14名、女性0名）
受講者属性	種別	大工：14名
	年齢構成	20歳未満：0名 30歳代：0名 20-24歳：3名 40歳代：7名 25-29歳：4名
座学・実技研修	座学	5回（名古屋会場：4回、碧南会場：1回）
	実技	24回（愛西会場：21回、碧南会場：3回）
	計	29回

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 【若手大工の育成研修】CCUSレベル2に満たない初級大工の育成（受講者5名）
木造軸組住宅の大工技能の基礎を教える3か年計画の1年目として、3年後にCCUSレベル2相当に達することを目指して以下の研修を実施した。
- 【座学】現場でのマナー、安全衛生法、コンプライアンスの重要性を説明した。木造軸組の構造の基本や建築資材について、断熱基準の基礎知識や設計図書から建物概要・建築物の仕様、施工内容の読みとり、積算、建物基準の概要を学んだ。
- 【実技】プレカット構造材を用いて、実習棟を土台から作り上げた。内張りボードを張り付けたり、階段も製作して1つの部屋を作り上げた。その後、解体まで行った。
- 【中堅大工の実技研修】若手大工の大工育成研修を卒業した受講生やCCUSレベル2相当以上の大工技能者を対象とした研修（受講者9名）
- 【実技】継続的に技能を習得する場として、計4回の短期研修を実施した。現寸図の作成から墨付けや加工、組立まで行い、「三重塔の構造物模型」を製作した。
- 育成事業検討会の開催（1回）
研修後に受講生の業務に活かされたか、技能を向上させる意欲が高まったかなど、研修の効果があつたかを確認した。
次年度の取組に向けての検証を行い、大工の年齢や技能レベル、就業状況等を考慮した育成カリキュラムを検討した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 【若手大工の育成研修】プレカット加工を軸とした育成プログラム
・講師と受講生が大工職業能力評価シートの全ての項目について、受講前と受講後の技能をそれぞれ評価し、面談も行った。結果、全員の全項目の合計点が10点～20点以上上昇し、技能の向上を確認できた。また、3ヶ年計画の1年目ではあるが、目標であるCCUSレベル2の到達は十分に見込め、技能向上に向けた意欲も高く保っている。
- 【中堅大工の実技研修】短期の実技研修
・講師が受講生の道具の使い方や講師の指示を理解しているか、指示通りの作業を行えているかなどを作業の様子から判断し、理解できていることを確認した。また、面談も行った。修了考査では、全員が80点以上だった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 短期間での研修で、目に見える形での飛躍的な成長は難しい。
- 若手大工の育成では、研修を通して鉋や差し金といった基本的な大工の道具が使えない若手大工が多くなったと実感した。そういった道具の使用方法を知らないと、住宅のリフォーム需要や修繕に対応できなくなる。改めて大工の道具の使用法などの研修を実施することが望ましい。
成果の検証方法として、自身の技能を客観的に評価できる大工職業能力評価シートの活用が適していると判断し、今後も使用する。
- 中堅大工の実技研修では、更なる技能向上や技能向上の意欲の継続、将来の指導者の確保に向けて実施している。
- 若手大工を対象とした研修も含めて、将来の指導者になれるような技能を身に付けられる内容を検討する必要がある。

令和5年度 地域ネットワークによる大工技能者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）【育成】



【若手大工の育成研修】



【中堅大工の実技研修】



【中堅大工の実技研修】

78



【若手大工の育成研修】



【若手大工の育成研修】




【中堅大工の実技研修・完成品】

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

循環型住宅に向けた匠の目と技術知識育成事業

79

令和6年3月5日
(一社)全国中小建築工匠連合会



1-1. 全体概要【育成】

実施地域	栃木県・オンライン	
研修期間	令和5年11月28日(1日)	
受講者数	実数	育成:30名(男性28名、女性2名)
受講者属性	種別	大工:22名 建築士:7名、製材1名
	年齢構成	20歳未満:0名 30歳代 : 6名 20-24歳:1名 40歳代 : 9名 25-29歳:0名 50歳代以上:14名
座学・実技研修	座学	1回(栃木会場:1回、オンライン併用)
	実技	-
	計	1回(栃木会場:1回、オンライン併用)

1-2. 研修活動等の概要【育成】

- 古材をどのように活用できるのかの判断方法や活用設計、注意事項について、写真や図を使った事例で学べるオリジナルテキストを作成し、研修で使用した。
- 消費者のニーズに応え、古材や古家の活用・改築の提案ができる大工になることを目的として実施した。日本の伝統行事である式年遷宮に携わった講師から、お宮の建築技術や日本古来の古材の活用方法(社で使用していた材を他の社や橋などに使用)の事例を紹介した。また、古材を住宅や店舗の柱、梁、インテリアに使用する現代の活用方法も学んだ。
- 研修の実施後、いつでも学べるようオンライン配信を行った。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

- 日本古来から受け継がれてきた式年遷宮による木造建築技術の伝承と古材を再利用してきた伝統や精神を学べた。古材を何にどのように活用できるか、加工等における注意事項、材別の活用方法について、理解できた。古材活用・注意事項について、筆記テストを行った。正解率80%以上の目標に対し、9割以上の受講者が達成できた。
- アンケートで、座学だけではなく実技や現場体験・見学に参加したいという積極的な姿勢が見られた。また、古材を活用した事業に取り組みたいという受講者もいた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

- 今年度は座学だけであったため、意欲のある者に対して実技へのステップアップの機会を作れなかったことが課題である。次年度は座学だけではなく、実技を取り入れたカリキュラムが必要である。
- 受講者から「古材や古家の耐震性や省エネ基準」について懸念の声が上がった。その際、不安を払拭できるような情報提供ができなかった。来年度は、大工が古材や古家の活用について、消費者に適切な提案ができるような研修を検討したい。



対面での研修の様子



対面での研修の様子



対面での研修と同時にオンライン配信を行った。



研修実施後も研修を受講できるようオンライン配信を行った。

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

最近の大工技能者等に係る動向

82

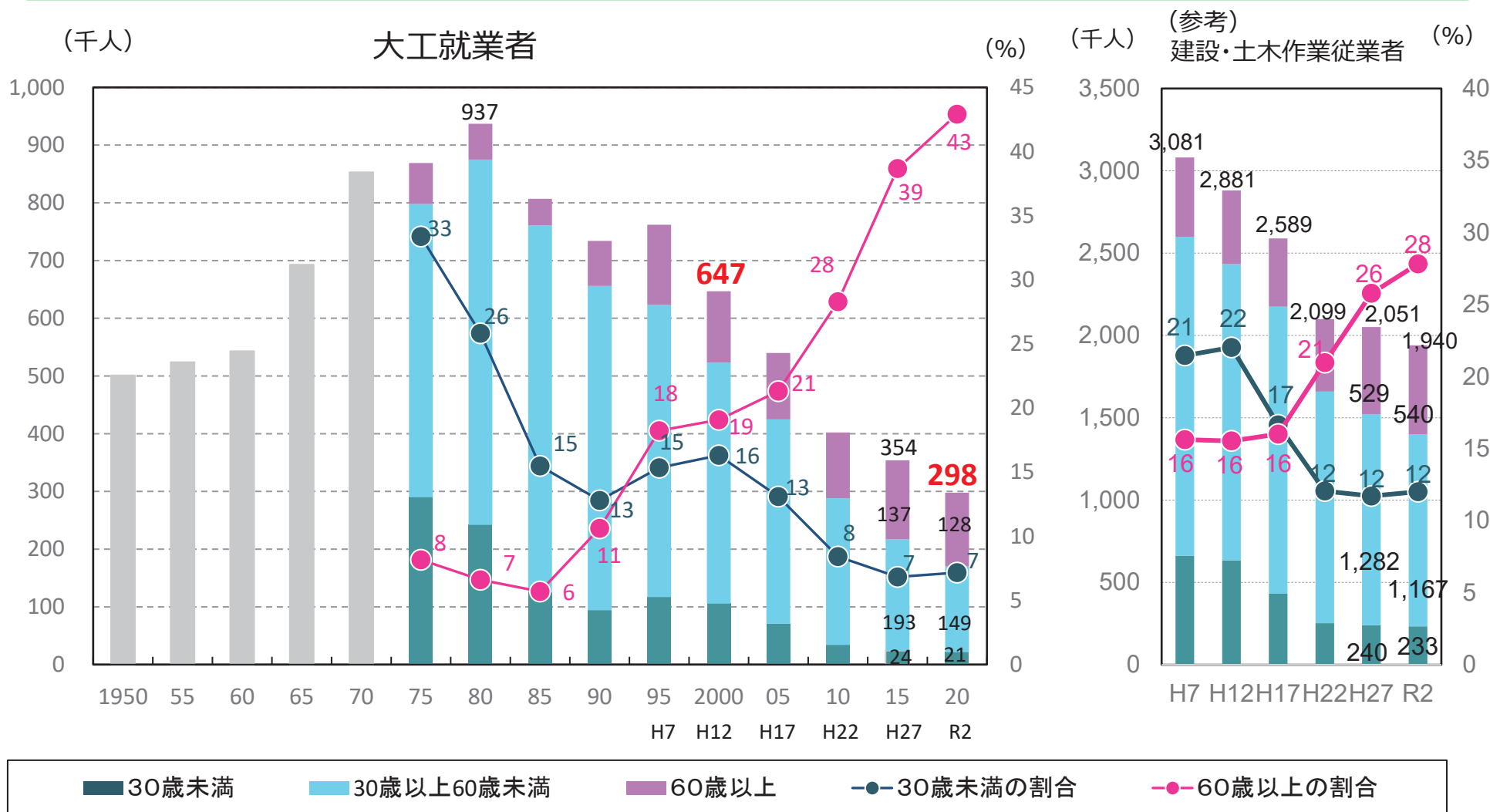
令和6年3月5日

国土交通省

住宅局住宅生産課木造住宅振興室

大工就業者数の推移

○ 木造住宅の担い手である大工就業者数は、令和2年に約30万人と、20年間で半減。
 人数の減少率と高齢化（60歳以上の比率）は、建設業従業者(全体)に比べて大きい。

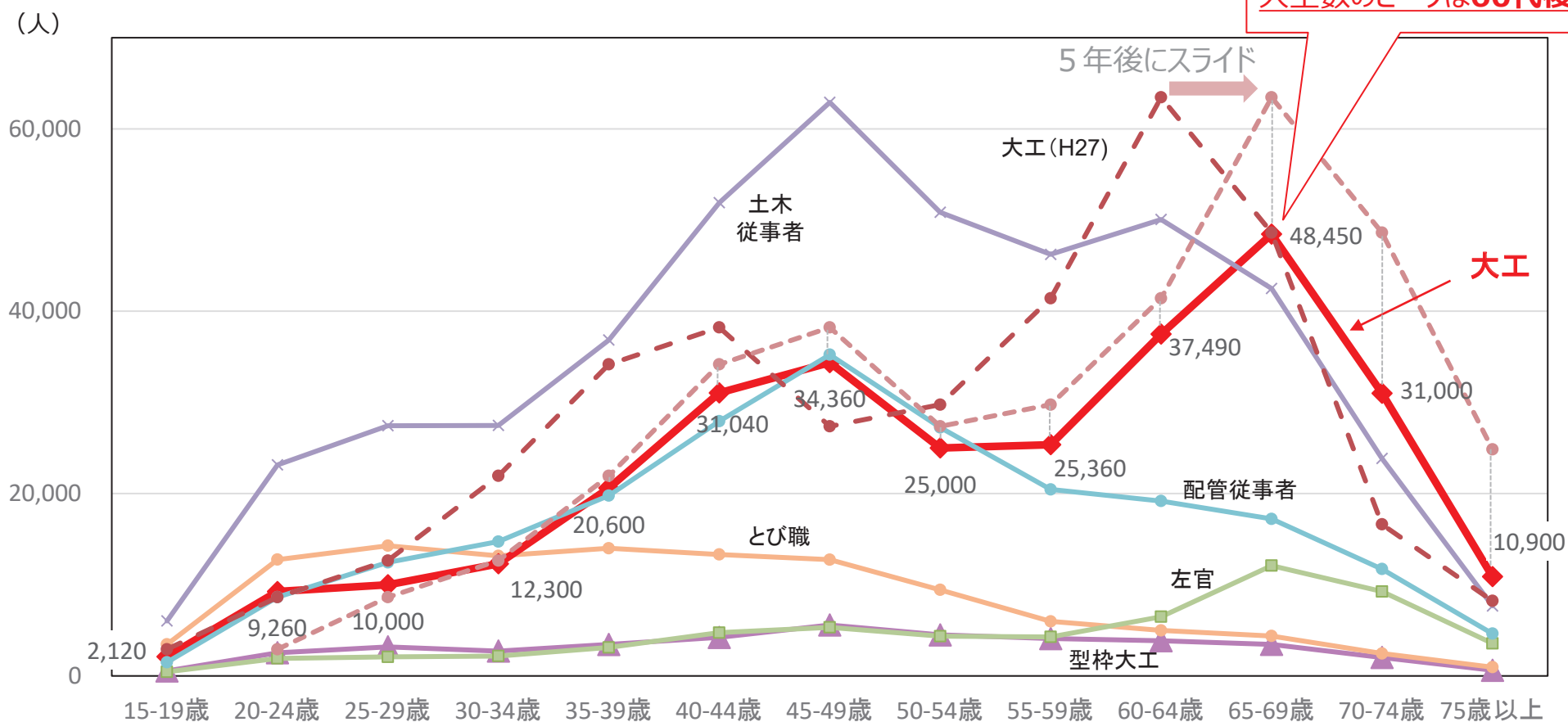


(総務省「国勢調査」)

大工就業者の年齢階層

- 他職種では40代後半に技能労働者数のピークがある一方、大工就業者は60代後半がピークとなっているため、ボリューム層が退職する時期を迎えている。
- 大工においては、30歳以上のいずれの年齢階層においても5年前よりも就業者が減少。

建設技能労働者の職種別年齢階層



大工数のピークは60代後半

5年後にスライド

大工(H27)

土木従事者

とび職

配管従事者

左官

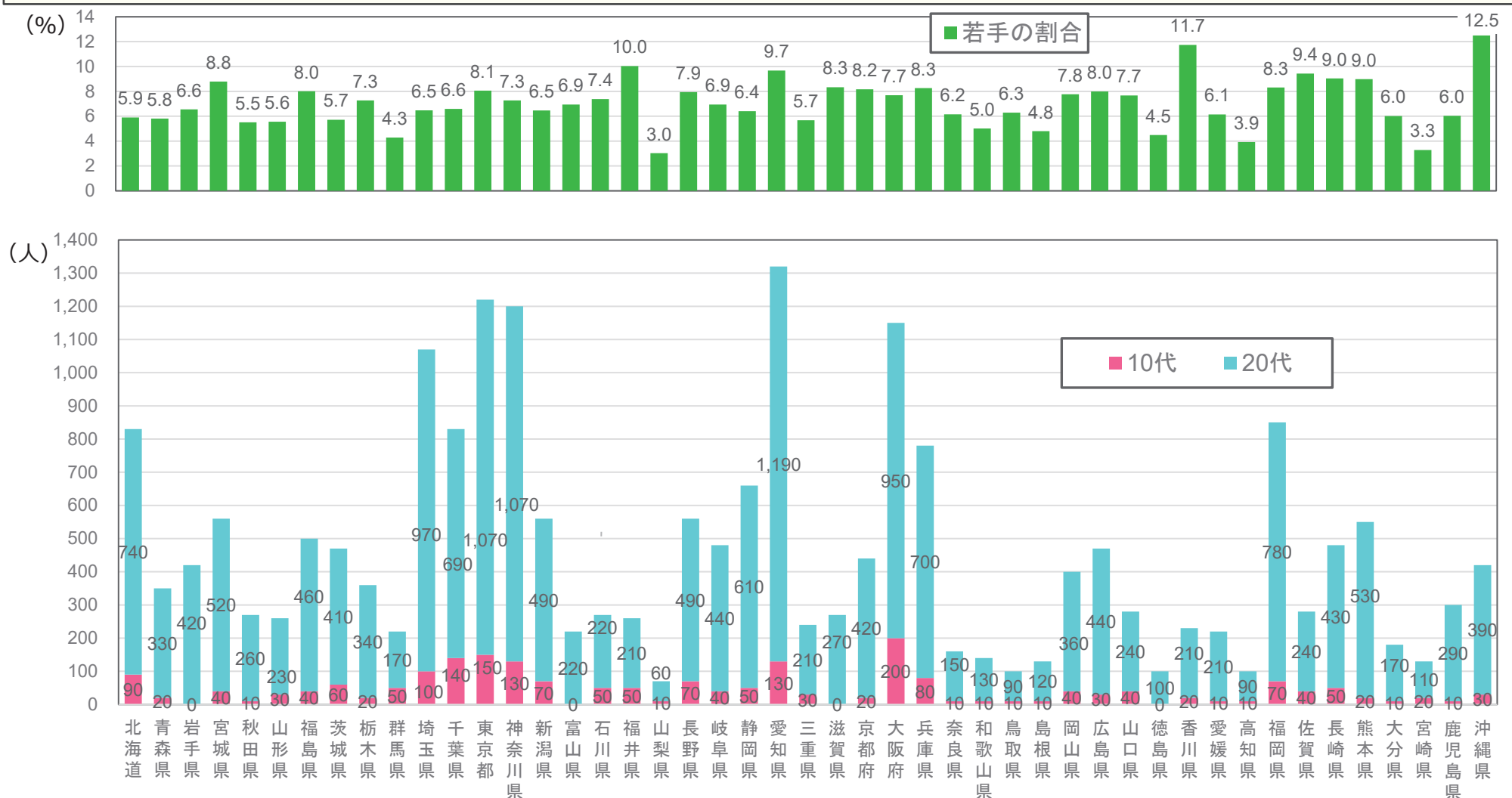
型枠大工

大工

総務省「平成27年度国勢調査」、「令和2年度国勢調査」
 ※実線は令和2年度調査結果を元に作成

若手大工就業者の人数及び割合(都道府県別)

- 各都道府県において、10代、20代の若手大工就業者の人数及び割合は地域ごとにばらつきがあり、全国で70人～1,320人（平均454人）となっている。
- 10代では0人～200人（平均46人）、20代では60人～1,190人（平均409人）となっている。



(参考)小学生が将来就きたい職業ランキング

○民間企業が独自に行う小学生が将来就きたい職業に関する調査において、大工・職人の順位が下落。今後、大工技能者の魅力を伝える取組が求められる。

2023年

2015年

2010年

2005年

【新小学生1年生(男の子)を対象にした「将来就きたい職業」(毎年4月クラレ公表)】

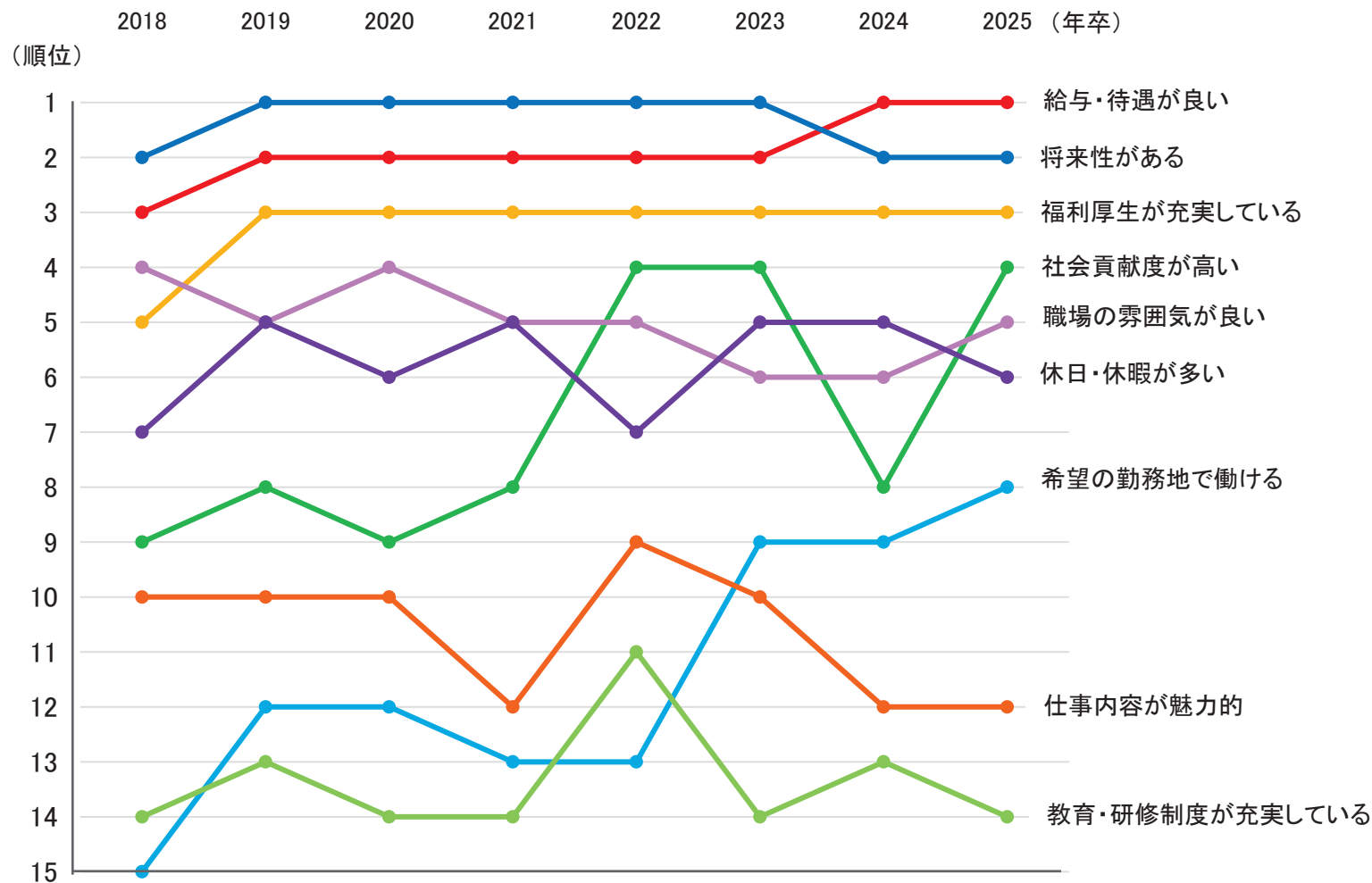


【小学生1～6年生(男の子)を対象とした「大人になったらなりたいもの調査」(毎年1月第一生命公表)】



大学生が就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 就活支援会社が大学生の就活生に対して行った調査によると、就職先企業を選ぶ際に重視する点として、「社会貢献度が高い」「職場の雰囲気が良い」「希望の勤務地で働ける」「仕事内容が魅力的」「教育・研修制度が充実している」が上位に入っている。
- これらが叶う職場環境を整備し、アピールしていくことは、大工技能者等の担い手確保においても有用。



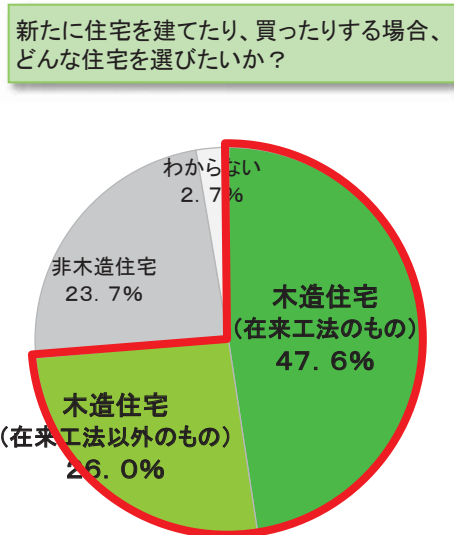
株式会社ディスコ「キャリアタス就活2018～2025 学生モニター調査結果」
 ※2018年卒～2019年卒：全30項目から5つまで選択したもののうち上位20項目から抜粋
 ※2020年卒～2025年卒：全30項目から5つまで選択したもののうち上位15項目から抜粋

地域に根差した住宅供給事業者の社会的役割

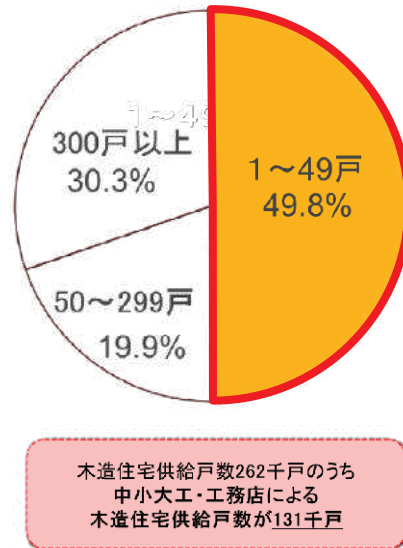
○地域に根差した住宅供給事業者は、次の観点から、わが国の住まいを支える上で重要なプレーヤーの一人。

- ・国民の7割超が木造を志向する中で、地域に根差した住宅供給事業者の太宗を占める中小工務店が、木造戸建住宅の新築の半数を担うほか、リフォーム等においても中心的な存在。
- ・地域の気候、風土に適応した住まいの提供を担う(寒冷地における断熱性・気密性、温暖地における通気性など)。
- ・地域の木材や石材等の資材を活用するなど地域文化を踏まえた住まいの提供を担う。
- ・地域経済を支えるとともに、地域の雇用の中心的な存在。
- ・災害発生時における応急仮設住宅の建設等を担う。

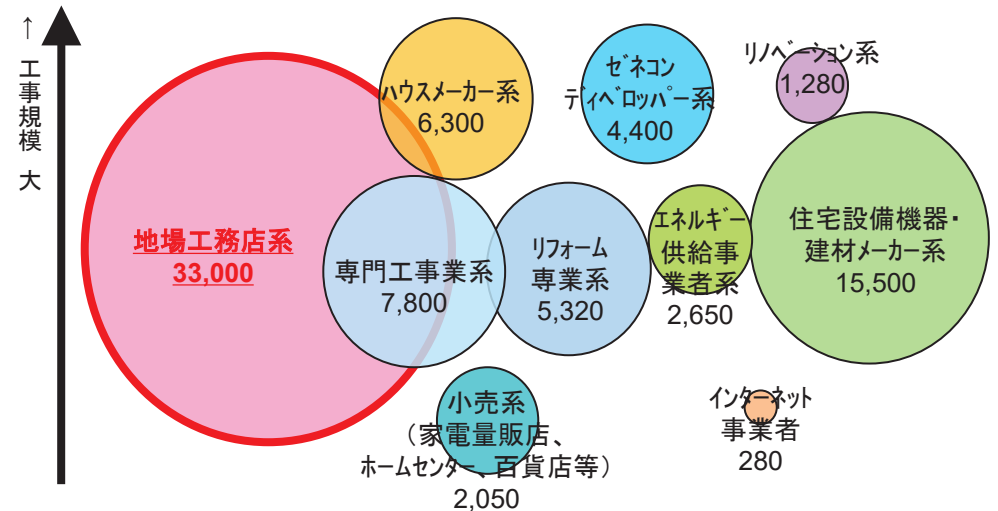
住宅建築等時の構造種別の希望



木造戸建住宅供給戸数の大工・工務店年間受注戸数別シェア



リフォームの担い手



グループの取組事例

■取組の具体例

【資材の供給】

- ・使用量の多い建材は、あらかじめ供給業者と協力して供給業者リストを作成し、円滑な供給体制を構築

【施工方法】

- ・北海道が独自に創設した認定断熱・気密施工技能技術者が施工すること

【維持管理方法】

- ・竣工後1年目・2年目・5年目に第三者機関による維持管理点検、防腐防蟻処理を行った物件は5年目に再施工を実施し白蟻保証を延長

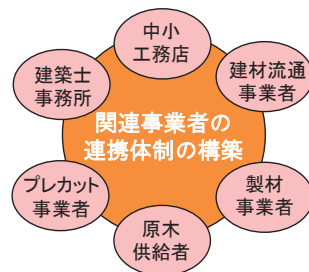
【災害対応関係】

- ・地震等災害時に備え、グループで災害対策指針を作成し、応急仮設木造住宅の建設や被災住宅応急修理などの復旧活動に備え。

(参考)グループとは

- ・地域の木材関係事業者、建材流通事業者、中小住宅生産者等の連携により構築することとしている。

中小工務店 : 5者以上
その他事業者 : 各1者以上



【未経験工務店等へのサポート】

- ・未経験工務店のための講習会を実施(左写真)。
- ・初物件の場合、着工前に技術者講師を派遣し、座学研修と建方時の現場研修の2回の研修を実施(右写真)。



省エネ設計等のための講習会の様子



座学研修の様子

- ・経験工務店を班長とする班による未経験工務店へのバックアップ体制(省エネ設計、認定申請等)の整備等を実施。
- ・主に未経験工務店を対象に会員設計事務所が申請サポート業務や省エネ基準における外皮面積・性能計算等のサポートが出来る体制を整えている。

【その他】

- ・倒産の際は、敏速にグループ内で協議・選定し引き継ぐ施工事業者を消費者に紹介する。

大工技能者等の担い手確保等に向けた取組

木造住宅の担い手である大工技能者の減少・高齢化が進む中、木造住宅の生産体制の整備を図るため、住宅現場における働き方改革への対応や大工技能者の実態調査を踏まえた担い手確保等に向けた方策について検討するとともに、民間団体等が行う大工技能者等の確保・育成の取組を支援する。

有識者、建築大工関係団体等により構成する「建築大工技能者等検討会」による検討。

【令和4年度の取組】

- ・ ウェブサイト構築に向けた、コンセプトやコンテンツの検討
- ・ インボイス制度や働き方改革への対応、事業承継などについての実態調査
- ・ 教育機関、新人大工及び雇用工務店の就職に関する調査
- ・ インボイス制度周知のため、一人親向け、元請向けのパンフレット作成

【令和5年度の取組】

- ・ 新規入職者を増やすため、業界外の求職者へのPR活動を実施することを目的としたウェブサイト構築。具体的には、構成団体の若手によるWGを設置し、大工の仕事の内容や魅力等が伝わるコンテンツの作成・公開を進める。
- ・ 教育機関、新人大工及び雇用工務店へのアンケート調査を、規模を拡大して実施。
- ・ 地域における若年技能者等のネットワーク作りとして、交流会を開催。
- ・ 工務店経営者に向け、事業承継について検討することを促すためのパンフレットを作成。



委員

芝浦工業大学建築学部建築学科 教授 蟹澤 宏剛 <座長>
 (一社)日本木造住宅産業協会
 (一社)日本ツーバイフォー建築協会
 (一社)JBN・全国工務店協会
 (一社)全国住宅産業地域活性化協議会
 全国建設労働組合総連合 <事務局>
 (一社)プレハブ建築協会
 (一社)日本ログハウス協会
 (一社)愛知県建設団体連合会

オブザーバー

(一社)住宅生産団体連合会
 国土交通省 住宅局住宅生産課木造住宅振興室

民間団体等が実施する、大工技能者等の確保・育成の取組を支援。

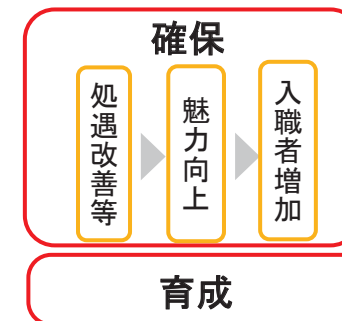
【補助対象】

(1)育成

大工技能者等を対象とした木造住宅の新築・リフォーム等の技能習得に係る研修

(2)確保

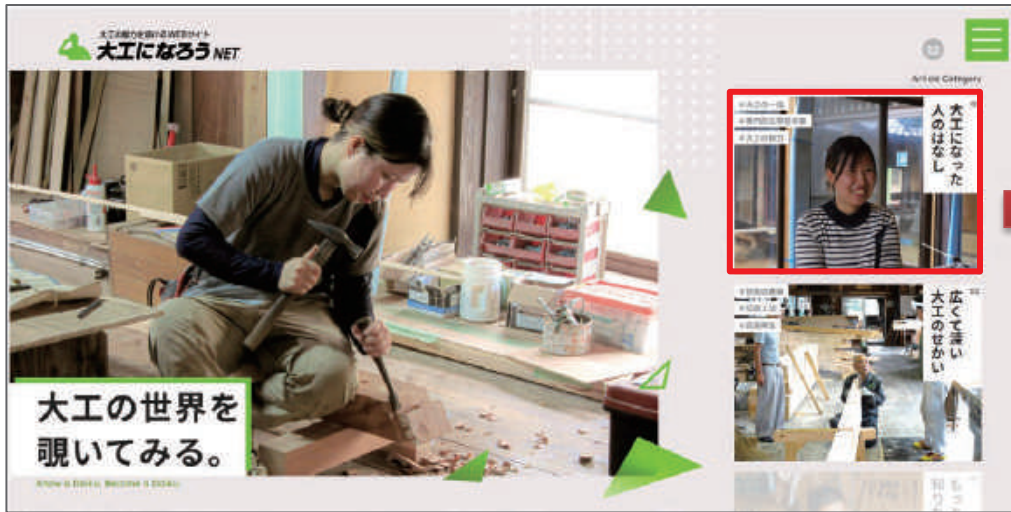
将来世代の確保(処遇改善、DX推進による労働環境向上等)に向けた取組



大工技能者の減少
 高齢化に歯止め

大工になろうNET・大工を育てるNET

- 建築大工技能者検討会において、大工の確保・育成それぞれに関するウェブサイトを作成（令和6年2月29日公開）。
- 大工になろうNETでは、現役大工へのインタビュー記事や動画を公開し、学生やその親などをターゲットに大工の魅力を発信。
- 大工を育てるNETでは、工務店等が大工を育成するのに役立つ情報を集約し、コンテンツを提供している。



大工になった人のはなし(現役大工へのインタビュー記事・動画)



大工になろうNET QRコード

91



技能者向け講習会情報



大工の確保・育成に利用できる補助金・助成金の案内



大工を育てるNET QRコード

令和5年度 国土交通省補助事業

住宅・建築物カーボンニュートラル総合推進事業
(大工技能者等の担い手確保・育成事業)

**「令和5年度 住宅・建築物カーボンニュートラル総合推進事業
(大工技能者等の担い手確保・育成事業) 事業成果報告書」**

発行・編集：一般社団法人木を活かす建築推進協議会

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F

URL <http://www.kiwoikasu.or.jp>

協力：株式会社アルセッド建築研究所

発行日：令和6年3月

無断複製を禁ず